明治大学　「個」を強くする大学。

国際日本学部

SCHOOL OF GLOBAL JAPANESE STUDIES

2024

国際日本学部長
鈴木 賢志（すずき けんじ）

1968年生まれ。明治大学付属明治中学・高等学校、東京大学（法学）、ロンドン大学（修士）、ウォーリック大学（博士）。スウェーデンのストックホルム商科大学欧州日本研究所で10年間教育研究に従事し、オックスフォード大学研究員を経て帰国。日本と北欧の社会システムの比較研究を専門とし、一般社団法人スウェーデン社会研究所の代表理事・所長も務める。

動画と記事で学部を知る
「Step into Meiji University」もぜひご覧ください

“Multicultural interactions” make the world go round.

学部長メッセージ

「日本と世界をつなぐ」力を身につける。

明治大学国際日本学部は、今年で16年目を迎えましたが、いまだに本学部の名前を聞いて「国際」が専門なのか「日本」が専門なのかと、戸惑う人が少なくありません。実はこの名前は、本学部が提案し、実現している新しい大学教育の姿を反映しています。

本学部が目指すのは、日本の魅力を世界的な視座から理解し、世界に向けて発信することができる力、そして世界の事情を日本の視座から理解し、日本への教訓を取り出して、日本に向けて発信することができる力の育成です。つまり日本から世界へ、そして世界から日本へ、「日本と世界をつなぐ」力を育てるのが、私たちの使命です。

もちろん「日本と世界をつなぐ」といっても、具体的には様々な方法があります。

たとえばツーリズムの仕事、特に海外から日本を訪れる人々をもてなす仕事をしたいと考えている人は、ツーリズムマネジメントを勉強しつつ、日本のポップカルチャーについても学ぶことで、アニメやマンガをきっかけに日本に興味をもった旅行者たちに、より楽しんでもらえるプランを提供できるようになるでしょう。アフリカの発展途上国の援助に貢献したい人は、アフリカの状況について学ぶとともに、将来、現地の子どもたちが日本に興味をもつ力になれるよう、日本語を教えるための技能を身につけると良いかもしれません。また日本で英語の教職につきたいと思っている人は、そのための技能の取得に加えて、世界各地の文化的多様性や多文化共生について学ぶことで、英語の教育を通じてより豊かな視野をもつ子どもたちを育てる教員を目指すことができます。

つまり本学部では、決まりきったカリキュラムの中で、あるひとつの分野の専門性を高めていくのではなく、自分だけの「日本と世界をつなぐ」力を想定し、そのために必要な知識を様々な専門分野から横断的かつ複合的に学びます。もちろんその学びの中には、英語による実践的なコミュニケーション能力の向上や、長期・短期の様々な形での海外留学・インターンシップ・ボランティアの経験も含まれています。

それはさながら色とりどりの絵の具が並んだパレットです。本学部の学生は、単に「教養を身につける」ために漫然と色を塗っていくのではなく、「日本と世界をつなぐ」という明確な目的意識のもとで、それらの絵の具を組み合わせて、自分だけのオリジナルな絵を描いていくのです。

新型コロナウイルス感染症は、私たちに大きな災禍をもたらしました。しかしそれはまた私たちにとって、これまでの大学教育や国際交流のあり方を見直す契機にもなりました。この経験をポジティブに捉えて、ともに前に進んでいきましょう。

CONTENTS

学部長メッセージ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
国際日本学部12の特色 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
カリキュラム概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
初年次教育科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
ポップカルチャー研究領域 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
社会システム・メディア研究領域・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
グローバル共生社会研究領域 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
国際文化・思想研究領域 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
日本文化・思想研究領域 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
日本語研究領域　日本語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
英語研究領域　英語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
総合教育科目　第二外国語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
演習（2・3・4年）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
海外留学プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
世界から集う学生（国際交流）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
座談会　国際日本学部での学びとは？・・・・・・・・・・・・・・ 27
キャリア形成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
就職実績 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
卒業生メッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
中野キャンパス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
入試情報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33

※登場する人物の在籍年次や役職等は、取材時点のものです。
2022年以前撮影の写真も掲載しています。

国際日本学部12の特色

グローバル化が進み、多様化する現代社会で活躍できる能力を培うことが国際日本学部の教育の使命だと考えています。国際日本学部12の特色は、目標達成のために構築されたカリキュラムを目的意識をもって学んでいくための指針です。

ポップカルチャー研究領域

マンガ、アニメ、ゲーム、特撮など日本の先端文化が世界から注目を集めています。それら作品の主題や表現とそのメディアや産業とのかかわり、制作を支える技術や流通の形態、国内外における受容のあり方やファン文化、歴史的変遷やその時々の社会的影響などを多角的に分析します。その追求を通じて、現代日本文化と世界とのかかわりを考えます。詳細は P.6

社会システム・メディア研究領域

現代日本の基盤となっている社会・経済システム、産業組織、企業経営、メディアなどの最先端の様相とその特質、優位性、課題について知見を深めていきます。同時に、それらを世界と照らし合わせつつ発信し、ビジネスやインフラを高度化させていくための新たな方法を求めていきます。詳細は P.7

グローバル共生社会研究領域

「世界で活躍する人材」の養成を目指して、国際関係や世界各地の地域研究、多文化共生・異文化理解に関する科目を充実させています。多様な文化背景を有する人々とともに働き、ともに生活することができるように、異文化リテラシーを高め、ダイバーシティ社会を支えるための基礎を修得します。詳細は P.9

国際文化・思想研究領域

世界各地の歴史や文化、とりわけ映画、文学、芸術、宗教、思想などについて、古典から現代の最新状況にいたるまで、幅広く修得します。詳細は P.11

日本文化・思想研究領域

グローバル化が進展する時代で活躍するには、外国の文化を受信するだけでなく、日本の文化を発信する能力が不可欠です。その能力を獲得するためには、日本の文化や思想を客観的に見る視点を養い、日本の文化や思想に関する幅広い知識を身に付け、その本質を見極めようとする努力が必要です。思想・哲学から伝統文化までその本質に触れながら日本の心を学びます。詳細は P.12

日本語研究領域

現在私たちが使っている日本語とはどのような特徴を持った言語なのでしょうか。世界のほかの言語と比較することや歴史的な背景を学ぶことなどを通して、現代日本語の面白さを再発見していきます。また、外国語としての日本語教育を学ぶ「日本語教育人材育成プログラム」も設置されています。詳細は P.13

英語研究領域

母語は無意識で習得できるのに、なぜ第二言語を習得するのは難しいのでしょうか。どうすれば効果的な英語教育ができるのでしょうか。言語学の分野を中心に実践に生かせる理論を学びます。詳細は P.15

少人数クラスでの実践的な英語教育

英語の総合的なコミュニケーション能力を磨き、英語で自分の意見を表現し、情報を発信できる能力を育成します。 1年次、 2年次は、英語能力試験の結果に基づいて習熟度別の少人数クラスで集中的な英語教育を実施します。また、英語の授業は専任のネイティブ・スピーカー教員を含む英語教育の専門家が担当します。詳細は P.16

日本と世界をつなぐ日本語教育

日本の文化や社会について深く理解し、その知見や情報を発信していくためには、十分な日本語能力が不可欠です。国際日本学部では、日本語を母語としない学生を対象に、入門レベルから上級レベルまで一貫したカリキュラムで独自の日本語教育プログラムを提供し、大学での学びや研究に必要な日本語能力を養成していきます。詳細は P.14

国際教育交流の推進

海外留学の経験は、国際的な視野の育成とともに外国語能力の向上のためにも重要でありますが、国際日本学部の学生にとっては、日本を相対化して捉え、日本研究をさらに深化させる契機としても大きな意義を持っています。そのためにも英語圏を中心に、短期留学も含めた多様な留学制度を整備し、正課授業の一環として海外留学の促進を図っています。詳細は P.21

総合的な教育プログラム

社会人文科学、ICT（Information & Communication Technology）、日本語表現技術など幅広く学べる総合教育科目、少人数で行う演習、社会連携、実践型の科目、第二外国語などがきめ細かく用意されています。詳細は P.19

多文化共生キャンパスの創成

豊富な国際経験を有した国内の学生や多様な文化的背景を持った外国人留学生を積極的に受け入れています。そうして形成された多文化コミュニティーの中で、国籍や民族などの違いを越えてともに学び、講義やゼミ活動、さらにキャンパスライフを通して、実践的に外国語能力や異文化理解力を磨いていきます。詳細は P.25

「世界の中の日本」を自覚して、世界を舞台に活躍できる人材を育成します。

国際社会をリードする次代の人材を育成するため、日本の産業・社会・文化の特質を深く知り、世界の文化・思想と国際関係を幅広く学ぶカリキュラムを多彩な教授陣が実現しました。集中的な英語教育と異文化の深い理解に基づいた、実践的な国際コミュニケーション力を養成します。

〈カリキュラム概要〉

国際日本学専門科目

ポップカルチャー研究領域

漫画文化論A・B
アニメーション文化論A・B
日本先端文化論A・B
現代都市とデザインA・B
ジェンダーと表象A・B
特撮の歴史と技術A・B
日本漫画史A・B

社会システム・メディア研究領域

日本社会システム論A・B
メディア社会学
広告とメディアA・B
クリエータービジネス論
ツーリズム・マネジメントA・B
グローバル化と金融サービス業A・B
ホスピタリティ・マネジメント論A・B
日本の教育A・B
テクノロジーと日本社会A・B
メディア・アートA・B
組織マネジメントと文化A・B
日本の政治A・B
インターネットと社会
日本的流通システム論A・B
コンテンツ産業論A・B
日本的ものづくり論A・B
日本技術移転史A・B
知的財産と企業戦略A・B
社会保障論A・B
経済団体研究A・B
都市交通システム論A・B
日本のジャーナリズムA・B
日本人の行動モデルA・B
国際マーケティング論A・B

グローバル共生社会研究領域

国際経済史A・B
平和学
アジア太平洋政治経済論A・B
東アジア地域研究A・B
多文化共生論
異文化間教育学A・B
海外留学入門A・B
国際教育交流論A・B
日本とドイツA・B
世界のなかのアフリカA・B
東南アジア地域研究A・B
ヨーロッパ政治経済論A・B
ファッション文化史A・B
モードの神話学A・B
ダイバーシティと社会A・B
アフリカと近現代世界A・B
グローバル開発学入門
共生と学びのデザイン論
国際関係論A・B
ロシアとユーラシアA・B
インド経済論A・B
移民政策論

国際文化・思想研究領域

映画史概論A・B
フランス文化論A・B
東アジア芸術論A・B
宗教と哲学A・B
比較宗教論
比較文化学A・B
ラテンアメリカの歴史と文化A・B
映像文化論A・B
東アジア文化交流史A・B
イスラーム史A・B
ヨーロッパ都市風俗論A・B
近現代イギリス研究A・B
現代アメリカ論A・B

日本文化・思想研究領域

武道文化論A・B
海外日本研究事情
日本表象文化論A・B
近現代日本文学A・B
舞台芸術論A・B
日本の哲学A・B
武道思想史
刀剣文化論
日本の文化伝統A・B
世界から見た日本美術A・B
江戸学A・B
伝統芸能論
歌舞伎・能の美学
日本伝統工芸研究
日本映画文化論A・B
日本の宗教A・B

日本語研究領域

日本語学A・B
日本語と社会A・B
日本語教育学（文法）A・B
日本語教育学（語彙）A・B
日本語教育学（音声）A・B
日本語の歴史A・B
外国語としての日本語教育法A・B

英語研究領域

言語と文化A・B
心理と言語A・B
応用言語学A・B
英語学A・B

総合教育科目

○国際日本学入門講義
○アカデミック・ICTリテラシー
○学術的文章の作成
○国際日本学基礎演習
▲国際日本学講座
▲学術研究・キャリア開発入門
社会学A・B
政治学A・B
経済学A・B
経営学A・B
西洋史A・B
日本史A・B
アジア史A・B
地理学A・B
統計学A・B
人類学A・B
メディアリテラシーA・B
テクスト分析A・B
スポーツ・身体運動文化A～E
国際日本学実践科目A～E
国際日本学部特別講座A・B
国際日本学特別演習A・B
社会連携科目A～H
国内インターンシップ
海外インターンシップ
海外ボランティア実習
全学共通総合講座
ICTエレメンタリー
ICTベーシックⅡ
ICT統計解析Ⅰ・Ⅱ
ICTデータベースⅠ・Ⅱ
ICTメディア編集Ⅰ・Ⅱ
ICTアプリ開発Ⅰ・Ⅱ
ICTコンテンツデザインⅠ・Ⅱ
ICT総合実践Ⅰ・Ⅱ
日本国憲法

演習科目

演習A・B・C・D

海外留学認定科目

Study-Abroad Program
留学関係科目（語学・実習）A・B
留学関係科目（講義）A・B・C
海外大学等関係科目A・B

大学院国際日本学研究科設置科目

外国語科目

英 語

○English (Speaking) Ⅰ・Ⅱ
○English (Listening) Ⅰ・Ⅱ
○English (Reading & Writing) Ⅰ・Ⅱ
○Research Paper Writing
○Speech & Presentation
○Advanced Reading & Writing
○Advanced Speaking & Listening
○TOEIC® Preparation Ⅰ・Ⅱ
TOEFL® Preparation
Advanced Level TOEIC®
Current English A・B
Discussion & Debate
Integrated English A・B
Literature Reading A・B
Practical Drama A・B
Business English

第二外国語

ドイツ語（初級）A・B
ドイツ語（中級）A～D
フランス語（初級）A・B
フランス語（中級）A～D
中国語（初級）A・B
中国語（中級）A～D
スペイン語（初級）A・B
スペイン語（中級）A～D
韓国語（初級）A・B
韓国語（中級）A～D

日本語科目

日本語

△留学生のための学術日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
▲Introductory Japanese (General)
▲Introductory Japanese (Vocabulary/Kanji)
▲初級日本語（総合）
▲初級日本語（語彙・漢字）
▲中級入門日本語（総合）
▲中級入門日本語（語彙・漢字）
▲中級日本語（総合）
▲中級日本語（語彙・漢字）
▲中上級日本語（総合）
▲中上級日本語（語彙・漢字）
▲上級入門日本語（総合）
▲上級入門日本語（語彙・漢字）
▲日本語能力試験対策（中級）
▲日本語能力試験対策（上級）

※国際日本学部は国際日本学科のみの一学科制です。コースはなく、全カリキュラム（全領域）の中から履修できます。なお、カリキュラムは変更になることがあります。 ※科目名のあとの英数字は、それぞれ違う内容の講義であることを示しています。 ※○印は必修科目、△印は外国人留学生のみ必修、▲印はイングリッシュ・トラックの学生を対象とした科目となります。 ※イングリッシュ・トラックのカリキュラムは、国際日本学部ホームページをご確認ください。

新しい初年次教育

総合教育科目

初年次教育科目

2023年度から新しい初年次教育が始まりました。
国際日本学部の7つの専門領域への導きとなる入門講義や、
自律的な研究を行う基礎力をつける学術スキルの実践科目を新設します。

国際日本学部では、人文科学・社会科学の幅広い専門領域の学びの機会を用意しています。1年次の春学期に、7つの専門領域への導きとなる入門講義を受講し、国際日本学の全体像をつかんでもらいます。どの専門領域に進んでも、自分の専門性を磨きながら、他の領域の知識にも触れ、専門の異なる仲間とも議論を重ねることが、真の教養を身につけ、知性を豊かにしていくことにつながります。そうした、自律的な研究を行う基礎力をつけるために、少人数クラスによる学術スキルの実践科目3つを、1年次の春学期・秋学期に受講します。

国際日本学入門講義（1年次春学期）

国際日本学部には、「ポップカルチャー研究」、「社会システム・メディア研究」、「グローバル共生社会研究」、「国際文化・思想研究」、「日本文化・思想研究」、「日本語研究」、「英語研究」の7つの専門領域があります。これらの学問が、それぞれどのような方法でどのようなことを解明しようとしているのかを、各領域の専任教員がオムニバス方式で講義します。その領域ならではの独自の世界を知るとともに、世界と日本がどうかかわり合うのかという見方で異なる領域を重ね合わせることで、国際日本学の豊かさや面白さを感じ取ってもらいます。

アカデミック・ICTリテラシー（1年次春学期）

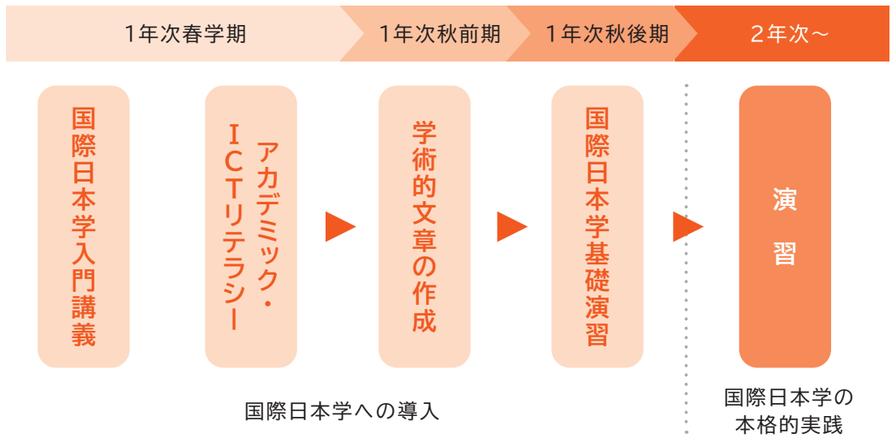
大学での研究においては、図書館やデータベースなどの文献情報検索を駆使し、パソコンを用いたコンテンツ作成やデータ分析を自在に実践していくことが求められます。すべての学問の基本となるICTリテラシーを、多彩な活動を通して身につけます。本授業では、主に次の3つを目標とします。まず、Word、Excel、PowerPointなどレポートや論文執筆、発表に必要なスキルを習得すること、次に、研究に必要な情報収集とその整理、分析ができるようになること、そして、ICTを活用し対話的で協働的な学習を各自進めていけるようになることです。

学術的文章の作成（1年次秋学期前期）

大学での学びは、「レポート」と呼ばれる学術的文章にまとめることで確かなものになり、知の共有も果たされます。大学の授業で執筆が求められるレポートには、授業で学んだことに関する自身の理解をまとめるもの、専門文献をひもといて内容をまとめるもの、それらを踏まえて自身の考えを展開するもの、さらには独自の研究に基づいて新たな知見を示す学術論文に近いものまで、様々な種類のものがあり、その種類に応じて書き方も異なります。本授業では、添削を受けながら多様なタイプのレポートの執筆に取り組み、４年間の学びで必要となる執筆スキルを身につけます。

国際日本学基礎演習（1年次秋学期後期）

問いを立て、問いにかかわる文献を読解し、読解を通して考えたことをグループ等でディスカッションし、論点を定めてプレゼンテーションし、学術的なレポートを作成します。文献読解に加えて調査によってデータを集めることもあります。国際日本学部の専任教員の専門分野に即して、たとえば「研究入門」「物語テクスト分析」「コンテンツ／ ICT」「日本語の中の外国語」などといったテーマで、少人数のクラスに分かれ、演習形式による学術研究を体験します。基礎演習で土台を完成させたら、 2年次からは、自分で専門を決める「演習」科目に進み、国際日本学の学術活動を本格化させます。



〈クール・ジャパン〉を科学する

国際日本学専門科目

ポップカルチャー研究領域

世界的に親しまれ、政府からも輸出文化や観光資源として注目される
日本の多様なポップカルチャーを多角的にとらえ、
国内外のビジネスや文化交流の場で有用な教養とします。

マンガ、アニメ、ゲーム、特撮など日本の先端文化が世界から注目を集めています。それら作品の主題や表現とそのメディアや産業とのかかわり、制作を支える技術や流通の形態、国内外における受容のあり方やファン文化、歴史的変遷やその時々の社会的影響などを多角的に分析します。その追求を通じて、現代日本文化と世界とのかかわりを考えます。

〈科目一覧〉

- 漫画文化論A・B
- アニメーション文化論A・B
- 日本先端文化論A・B
- 現代都市とデザインA・B
- ジェンダーと表象A・B
- 特撮の歴史と技術A・B
- 日本漫画史A・B

学生コメント｜日本先端文化論　森川 嘉一郎 准教授

ポップカルチャー研究領域はこの学部の特徴であると同時に、私自身日本のアニメや漫画がとても好きだったのでこの授業を履修しました。この授業では、日本のアニメ・ゲームなどの変遷を中心に学ぶことと並行して、それらの文化だけでなく商業・産業としての側面についても学んでいきます。期末課題はただレポートや試験を行うものではなく、実際に企画を作成するクリエイティブなもので、授業で学んだことを発展させる企画力や想像力が求められました。この期末課題に取り組むことで実践的な学びを深めることができ、とても楽しかったです。

2年 宮崎 夏帆
千葉県立
佐倉高等学校卒業

漫画文化論、
ジェンダーと表象

藤本 由香里
教授

東京大学教養学科卒業後、筑摩書房で編集者を務める傍ら、コミック・女性・セクシュアリティなどについて評論活動を行う。講談社漫画賞・手塚治虫文化賞・メディア芸術祭マンガ部門などの選考委員を歴任。米沢嘉博記念図書館の開設にもかかわり、東京国際マンガ図書館設立に尽力中。著書に『私の居場所はどこにあるの？』(朝日文庫)ほか多数。

日本先端文化論、
現代都市とデザイン

森川 嘉一郎
准教授

早稲田大学大学院修了（建築学・修士）。ヴェネチア・ビエンナーレ国際芸術祭日本館コミッショナーとして「おたく：人格＝空間＝都市」展を制作（星雲賞）。米沢嘉博記念図書館の開設にかかわり、現在、マンガ・アニメ・ゲームのアーカイブとなる東京国際マンガ図書館の設立準備を推進。著書に『趣都の誕生』（幻冬舎）、企画構成を務めた展示に『MANGA⇔TOKYO』（パリ、2018）ほか多数。

科目紹介｜日本漫画史

宮本 大人 教授

この科目を受講する人に興味をもってほしいのは、日本の漫画にはどのようなジャンルがあり、それぞれどのような表現の工夫の積み重ねの歴史の上に成り立っているのか、漫画の物語と表現を分析的に見ることの面白さ、といったことです。こうしたテーマに、講義を聞くだけでなく、受講者自身によるグループ発表の形で取り組んでもらうのがこの科目の特徴です。自分たち自身で調べ、考え、その結果をプレゼンテーションする訓練にもなる科目です。主体的で積極的な取り組みが求められる、大学らしい授業になっています。

日本漫画史、
アニメーション文化論

宮本 大人
教授

漫画の歴史を研究しています。講義では漫画とアニメーションを、ゼミではポピュラーカルチャー全般を扱っています。明治大学にある漫画の図書館、米沢嘉博記念図書館で展示の企画構成などもやっています。東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程単位取得退学。共著に『マンガの居場所』（ＮＴＴ出版）など。

最先端の日本の産業・社会の特質を知る

国際日本学専門科目

社会システム・メディア研究領域

現代日本の基盤をなす最先端の企業・産業・社会について
ハード・ソフト両面から考察し、日本の社会システムやメディアと情報、
経営の特質などの優れた点を明確にします。

現代日本の基盤となっている社会・経済システム、産業組織、企業経営、メディアなどの最先端の様相とその特質と優位性について知見を深めていきます。同時に、それらを世界に発信し、ビジネスやインフラとして普及させていくための新たな方法を求めていきます。

〈科目一覧〉

- 日本社会システム論A・B
- メディア社会学
- 広告とメディアA・B
- クリエータービジネス論
- ツーリズム・マネジメントA・B
- グローバル化と金融サービス業A・B
- ホスピタリティ・マネジメント論A・B
- 日本の教育A・B
- テクノロジーと日本社会A・B
- メディアアートA・B
- 組織マネジメントと文化A・B
- 日本の政治A・B
- インターネットと社会
- 日本的流通システム論A・B
- コンテンツ産業論A・B
- 日本的ものづくり論A・B
- 日本技術移転史A・B
- 知的財産と企業戦略A・B
- 社会保障論A・B
- 経済団体研究A・B
- 都市交通システム論A・B
- 日本のジャーナリズムA・B
- 日本人の行動モデルA・B
- 国際マーケティング論A・B

組織マネジメントと文化、知的財産と企業戦略

小笠原 泰
教授

東京大学卒、シカゴ大学社会科学大学院および経営大学院修了。戦略・グローバル・ICTを軸に知的刺激を追求。McKinsey & Co.、米国アグリメジャーのCargill社（米国本社、欧州法人勤務）、NTTデータ経営研究所パートナーを経て、2009年より現職。専門は、組織文化論、社会システムデザイン論、社会テクノロジー論。主著に『CNCネットワーク革命』『なんとなく、日本人』『日本型イノベーションのすすめ』『2050 老人大国の現実』などがある。

日本的ものづくり論

呉 在烜
教授

ソウル大学経済学部卒業後、東京大学大学院経済学研究科にて修士・博士課程修了（経済学博士）。リヨン大学「東アジア研究所」研究員、東京大学ものづくり経営研究センター特任准教授などを経て、2008年より現職。専門は技術・生産管理論、国際経営論。著書に『ものづくり経営学』（共著）、『「日中韓」産業競争力構造の実証分析』（共著）などがある。

広告とメディア

小野 雅琴
専任講師

中国・武漢大学外国語言語文学学部を卒業した後、慶應義塾大学大学院に進学。同大学大学院商学研究科後期博士課程修了。博士（商学）。株式会社博報堂にて、ストラテジックプラニングディレクター、上席研究員を経て現職。専門は広告論など。著書に『マーケティング・コミュニケーション大辞典』（分担執筆）などがある。

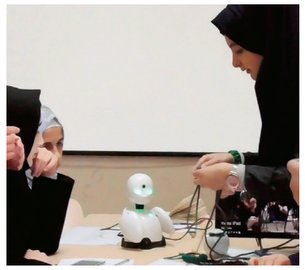
テクノロジーと日本社会、コンテンツ産業論

田中 絵麻
准教授

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科国際関係学専攻・博士課程修了（博士（学術））。財団法人国際通信経済研究所、一般財団法人マルチメディア振興センターを経て2019年より現職。専門は、ICT政策、コンテンツ産業論。主著『米国における通信法の適用範囲を巡る議論と政権交代による影響の考察』（2017年「情報法制研究」）。

科目紹介｜インターネットと社会　岸 磨貴子 准教授

インターネット社会では、知識はもはや個人や組織、専門誌などの所有物ではなく、ネットワーク上での共有物になりつつあります。また、知識は専門家が生み出した普遍的な事実だけではなく、誰もが創造し発信できるものになりました。前半では、心理学や社会学の理論や方法論を参考にしながら、インターネット社会を多角的な観点から読み解いていきます。後半では、社会の課題をテーマとして様々なテクノロジーを活用した解決方法を、具体事例をもとに学びます。



分身型ロボット OriHime を用いた難民の教育支援
（本学学生によるトルコのシリア難民との実践研究）

インターネットと社会、共生と学びのデザイン論
メディアリテラシー

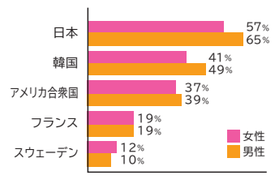
岸 磨貴子
准教授

国際ボランティアとしてシリアの国連パレスチナ難民救済事業機関で2年間教育開発に従事。教育におけるICT活用に関心をもち、関西大学大学院へ進学。博士号（情報学）。トルコ、シリア、ミャンマー、インド、バングラデシュなど海外の教育機関、政府機関、NGO/NPOと連携して教育実践に取り組んできた。著書は『大学教育をデザインする』。

科目紹介｜日本社会システム論　鈴木 賢志 教授

世の中には、私たち日本人にとっては「当たり前」でも、海外の人から見ると「不思議」ということがたくさんあります。そしてそういったことは、日本に長く住んでいる人なら、当然、説明できると思われています。「そんな問題、受験に出なかったからワカラナイ」なんて答えたら、笑いものです。「日本社会システム論」では、そんな日本の様々なシステムについての理解を深めます。日本のシステムは諸外国と比べて何が特別なのか、またそのようなシステムは、日本人の価値観や日本企業の行動とどのように結びつけられるのかを論じていきます。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に「賛成」「どちらかといえば賛成」という人の割合



資料　内閣府『男女共同参画社会に関する国際比較調査』、2011年

日本社会システム論、ヨーロッパ政治経済論

鈴木 賢志
教授

1992年東京大学卒業、(株)富士総合研究所、英国ロンドン大学を経て2000年英国ウォーリック大学Ph.D.取得。1997年から10年間スウェーデンのストックホルム商科大学欧州日本研究所に勤務。専門は政治経済学、社会心理学。日本と北欧の社会システムや人々の行動パターンに関する論文を多数発表している。

学生コメント｜ツーリズム・マネジメント　佐藤 郁 専任講師

現在、私たちは観光を娯楽のひとつとして当たり前に認識しています。しかし、ツーリズム産業にはあらゆる産業や利害関係者がかかわっており、非常に複雑な体系のもとで、私たちは観光を楽しむことができています。この授業では、航空業や宿泊業などにおけるツーリズムビジネスのみならず、観光の大衆化の歴史や、国内外の観光地でのケーススタディを通して、ツーリズムをあらゆる視点から学ぶことができます。ツーリズムは観光地に大きな利益をもたらす反面、環境問題や経済問題などと密接に関係しており、適切なマネジメントが求められます。私はこの授業を通じて観光業が様々な面でジレンマを抱えていることを知り、ツーリズムが担う役割について考えさせられ、また自分自身の観光客としてのあり方を見つめなおす機会となりました。

3年 伊東 馨太郎
東京都私立
國學院大學久我山高等学校卒業

ツーリズム・マネジメント

佐藤 郁
専任講師

津田塾大学学芸学部卒業後、（株）ジャルパック入社。ロンドン大学大学院（UCL）空間計画学修士課程、立教大学大学院観光学研究科博士課程修了。博士（観光学）。立教大学観光学部兼任講師を経て現職。専門は観光学。主に英国を中心に、ツーリズムを通じた地域連携や異文化理解など、観光のもつ「力」をテーマに研究を行う。

日本的流通システム論

戸田 裕美子
准教授

青山学院大学経営学部経営学科を卒業後、慶應義塾大学大学院商学研究科にて修士・博士課程修了。博士（商学）。日本大学商学部専任講師・准教授を経て、2022年より現職。専門は商業学、流通論、マーケティング史。『文化を競争力とするマーケティング』（共著）、『欧州小売企業の国際展開』（共著）などをはじめ、流通・マーケティングに関する論文を多数発表している。

ホスピタリティ・マネジメント論

Quek, Mary
特任准教授

Quek Mary is originally from Singapore. She is a graduate of the National University of Singapore (FASS), majoring in Economics and Japanese Studies. She was awarded her MSc in International Hotel & Tourism Management and her Ph.D. in Hotel Management from Oxford Brookes University in the UK. She has worked in Japan, Singapore, the UK and the USA in the hotel, travel and education sectors. Her research interests include the business histories of international hotel companies, and more recently, Singapore coffee culture, and tourism development in Singapore and Japan.

メディア・アート

琴 仙姫
特任講師

アーティスト、映像作家。2005年米国 カリフォルニア芸術大学 (Cal Arts)修士課程修了。2011年東京藝術大学先端芸術表現領域博士課程修了。2016年ポーラ美術振興財団在外研修員としてロンドンにて研修。2003年からヨーロッパやアメリカ大陸、アジアの国々で作品を展示。川村文化芸術振興財団「ソーシャリー・エンゲイジド・アート支援助成」、ポーラ美術振興財団「美術に関する国際交流助成」などを受けて様々なプロジェクトの企画運営を推進。

国際社会および国際関係を学ぶ

国際日本学専門科目

グローバル共生社会研究領域

世界をリードする人材に必要な国際関係や異文化交流の基礎を体得し、
国際社会の様々な現象をしっかりと見つめます。
世界で活躍する教授陣が実践的な授業を展開します。

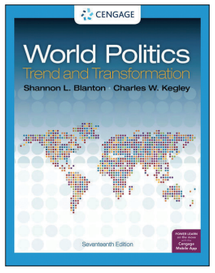
「世界で活躍する人材」の養成を目指して、国際関係や世界各地の地域研究、多文化共生・異文化理解に関する科目を充実させています。多様な文化背景を有する人々とともに働き、ともに生活することができるように、異文化リテラシーを高め、ダイバーシティ社会を支えるための基礎を修得します。

〈科目一覧〉

- 国際経済史A・B
- 平和学
- アジア太平洋政治経済論A・B
- 東アジア地域研究A・B
- 多文化共生論
- 異文化間教育学A・B
- 海外留学入門A・B
- 国際教育交流論A・B
- 日本とドイツA・B
- 世界のなかのアフリカA・B
- 東南アジア地域研究A・B
- ヨーロッパ政治経済論A・B
- ファッション文化史A・B
- モードの神話学A・B
- ダイバーシティと社会A・B
- アフリカと近現代世界A・B
- グローバル開発学入門
- 共生と学びのデザイン論
- 国際関係論A・B
- ロシアとユーラシアA・B
- インド経済論A・B
- 移民政策論

科目紹介｜国際関係論　Vassiliouk,Svetlana 教授

本授業は、20世紀の国際政治に焦点を当て、国際関係論の理論と歴史を学生に紹介することを目的としています。国際関係論の主な学派を取り上げ、その主要理論により歴史的事件や現在の政策課題を解明することで、学生が現在の国際関係を理解し説明する分析的枠組みを身につけることを目指しています。取り上げるトピック：国際関係論の主な理論、両世界大戦および冷戦における列強間の対立と関係、旧ソ連圏の民主化、冷戦後の国際関係の主要な傾向、グローバリゼーション、グローバルな課題、今後の国際秩序。授業は英語で実施します。



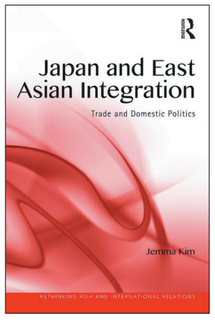
国際関係論、日本の政治

Vassiliouk, Svetlana
教授

旧ソ連ウクライナ生まれ、ロシア育ち。1994年に米国に移住、2002年より日本に滞在。米国のJohns Hopkins SAISでのMA(International Relations およびJapan Studies)取得後、法政大学大学院での博士号（政治学）取得。法政大学やテンプル大学（TUJ）での政治、国際関係の講義、2008～2011年の日本エネルギー経済研究所での研究活動の後、2011年4月より現職。専門は日ロ関係、北東アジアのエネルギー問題、日本外交。

科目紹介｜アジア太平洋政治経済論　金 ゼンマ 教授

今日、アジア太平洋地域の秩序のパラダイムは二国間FTAを超えて、メガFTAをベースとした広域経済統合の時代に入っています。環太平洋パートナーシップ協定（TPP）、地域的な包括的経済連携（RCEP）、「一帯一路」構想（Belt and Road Initiative）等、様々な枠組みが打ち出され、アジア太平洋地域の新秩序が構築されつつあります。この講義では、重層的に進展する地域統合への動向を踏まえ、アジア太平洋の地域主義は今後どのような方向に進むのか、現状と問題点、今後の課題について考察します。特に、WTOとFTAのあり方、ASEAN+3、TPPなどアジア太平洋の経済連携の動きに注目します。アジア太平洋地域主義を促している政治的・経済的要因を探ることで、アジア地域統合への示唆を見出すことを期待します。



アジア太平洋政治経済論

金 ゼンマ
教授

高麗大学国際大学院（MA･Area Studies）、一橋大学大学院法学研究科国際関係博士課程修了（博士［法学］）。一橋大学研究員、早稲田大学助教などを経て、2014年より現職。専門は国際政治経済、アジア太平洋国際関係論。著書に『*Japan and East Asian Integration*』（Routledge）、『日本の通商政策転換の政治経済学』（有信堂）などがある。

科目紹介｜ダイバーシティと社会　岩田 祐子 特任教授

グローバル化が進む社会において社会や人々の多様性はますます大きくなっています。この授業では、社会の多様性に焦点を当て、多様性をめぐる現実について理解を深めていきます。春学期は外国人、ジェンダー、ジェネレーション、障がいなどについて学習し、ダイバーシティと異文化理解について基礎的な知識と視点を習得していきます。秋学期には社会の中の偏見や差別、レイシズムの原因とメカニズムを学び、アライ（味方）としてどのような行動をすべきなのかを考えていきます。また、異文化理解という視点から自分の固定概念と向き合い、多様な背景を持つ人との関係の取り方やコミュニケーションの方法についても学んでいきます。

ダイバーシティと社会

岩田 祐子
特任教授

国際基督教大学大学院にて博士号（教育学）取得。専門は、社会言語学、談話分析、語用論、異文化コミュニケーション、英語教育。研究分野は、相互理解のための異文化コミュニケーション能力の育成。移動と言語。言語による社会化。言語とジェンダー。異文化コミュニケーション学会(SIETAR JAPAN)元会長。著書は、『改訂版　社会言語学―基本からディスコース分析まで』（共著、ひつじ書房、2022年）。

科目紹介｜多文化共生論　山脇 啓造 教授

日本に暮らす外国人は、1990年代以降、大きく増加し、約300万人になっています。2018年には、新たな外国人材受け入れのために入管法も改正されました。グローバル化や少子高齢化の進展によって、外国人の増加と定住化はさらに進んでいくことが予想されます。そうした中で、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め、対等な関係を築こうとしながらともに生きる多文化共生社会の形成が、今後の日本にとって大きな課題となっています。この講義では、全国の外国人が多く暮らす地域を取り上げ、多文化共生の地域づくりについて考察します。その際、自治体の施策を中心に取り上げますが、市民団体、学校、大学、企業など、地域社会の様々な担い手が果たす役割にも注目します。

多文化共生論、移民政策論

山脇 啓造
教授

コロンビア大学国際関係・公共政策大学院修了。専門は移民政策・多文化共生論。研究成果を実践に生かすため、総務省、法務省といった国や東京都、群馬県などの地方自治体の外国人施策関連委員を歴任。主著に『インターカルチュラル・シティ』（共編、明石書店、2022年）『新　多文化共生の学校づくり―横浜市の挑戦』（共編、明石書店、2019年）など。

科目紹介｜世界のなかのアフリカ　溝辺 泰雄 教授

アフリカ（サハラ以南アフリカ）は現在、急速に変貌を遂げつつあります。依然として深刻な貧困問題が存在する一方で、都市部を中心に一般にも情報通信技術（ICT）が普及し、政治の民主化も着実に浸透しつつあります。「世界のなかのアフリカ」は、こうした変わり続ける「アフリカの今」をグローバルの視点とローカルの視点の両面から学びます。アフリカを含む英語圏のニュースメディアの記事や映像資料などを使用して、食糧・環境問題や地域間紛争などアフリカが直面する諸問題や、発展を続けるビジネス分野の動向などを深く考察していきます。

ケニア、ナイロビの都心部
（2011年9月撮影）

世界のなかのアフリカ、アフリカと近現代世界

溝辺 泰雄
教授

専門は、アフリカ近現代史、アフリカ地域研究。大阪外国語大学大学院言語社会研究科修了（博士［学術］）。ガーナ国立ガーナ大学大学院アフリカ研究科留学、日本学術振興会特別研究員PDなどを経て現職。これまでに訪れたアフリカの国は10カ国以上。変貌する「アフリカ」の姿をローカルとグローバルの視点から見つめ続けている。

Topics｜新規開設科目

2023年度からグローバル共生社会研究領域の新規科目「ロシアとユーラシアA・B」、「共生と学びのデザイン論」、「グローバル開発学入門」を開講しました。
「ロシアとユーラシアA・B」では、アジアと欧州の架け橋であるユーラシア地域について、特にその中心であるロシアを軸に歴史的、地政学的、社会経済的観点から学びます。「共生と学びのデザイン論」では、教育分野における国際協力、共生のための国内外での教育の具体事例およびその背景となる理論を学び、多様な人々がともに生きる社会づくりに貢献できるようになることを目的とします。「グローバル開発学入門」では、開発問題に関する諸理論を学び、開発とは何かという問いについて、自ら主体的に考察する力を養成します。

※授業内容は今後変更となる可能性があります。

世界の文化・思想を深く学ぶ

国際日本学専門科目

国際文化・思想研究領域

世界の様々な地域の現状と歴史、そして世界の芸術、宗教、文化、
思想について、その由来から深く学びます。
それが世界を知り、日本を知る基本となります。

世界の各地域の政治・経済・歴史、世界の文学、映画、芸術、宗教、思想、文化などについて一流の教授陣のもとで古典から現代の最新状況にいたるまで、幅広く修得します。

〈科目一覧〉

- 映画史概論A・B
- フランス文化論A・B
- 東アジア芸術論A・B
- 宗教と哲学A・B
- 比較宗教論
- 比較文化学A・B
- ラテンアメリカの歴史と文化A・B
- 映像文化論A・B
- 東アジア文化交流史A・B
- イスラーム史A・B
- ヨーロッパ都市風俗論A・B
- 近現代イギリス研究A・B
- 現代アメリカ論A・B

科目紹介｜フランス文化論　鵜戸 聡 准教授

18世紀ヨーロッパの共通語、19世紀世界の外交言語だったフランス語は、いわばかつてのグローバル言語かもしれません。一方それは依然として、北米やアフリカの有力言語、国際機関の公用語であり、芸術や美食のみならず科学とビジネスの言語としても世界中で学ばれています。そのようなフランス語の文化史・社会史を国際日本学として学ぶ「フランス文化論」は、世界各地のフランス語圏の事例を通して、英語中心的なグローバル社会観を相対化します。日本美術が西欧美術革新の触媒となったジャポニスム、フランス・ベルギーの伝統あるコミック「バンド・デシネ」、フランス語で書かれたアルジェリア文学なども取り上げ、文化の世界的流通と双方向の影響関係を探究します。

フランス文化論

鵜戸 聡
准教授

東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻博士後期課程修了。博士（学術）。鹿児島大学法文学部准教授を経て現職。専門はアラブ世界を中心としたフランス語圏文学だが、台湾語文化やチベット圏の現代文学など、言語文化に広く関心がある。共著に『国民国家と文学』、訳書にカメル・ダーウド『もうひとつの「異邦人」』など。

ラテンアメリカの
歴史と文化、スペイン語

旦 敬介
教授

日本を代表するラテンアメリカ文学の専門家。東京大学を卒業後、メキシコに学んだ後、ラテンアメリカ文学の翻訳をしながらスペイン、ケニア、ブラジルで暮らし、アフロ・ブラジル研究に目覚めた。現在の関心は、ラテンアメリカとアフリカの間の人と物と情報の交流史。著書『旅立つ理由』、訳書バルガス=リョサ『ラ・カテドラルでの対話』、チャトウィン『ウイダーの副王』など。

映像文化論、
映画史概論

瀬川 裕司
教授

東京大学文学部卒業、同大学大学院人文科学研究科修士課程修了。ベルリン自由大学留学、横浜国立大学教育学部助教授、明治大学理工学部教授などを経て2008年より現職。文学博士。専門は映画学およびドイツ文化史。『ナチ娯楽映画の世界』『ビリー・ワイルダーのロマンティック・コメディ』をはじめ著訳書多数。

日本の文化・思想の源を学ぶ

国際日本学専門科目

日本文化・思想研究領域

日本の文化・思想について、その根源から学んでいきます。
日本の大学で学んだ者が世界で活躍するためには、
ニッポンについてしっかりと説明できる見識を身につけなければなりません。

外国に行くと、必ず日本の社会や文化についてたずねられます。今後、グローバル化がさらに進展する時代の中で活躍するためには、外国の文化を受信するだけでなく、日本の文化を発信する能力が不可欠です。その能力を獲得するためには、日本の文化や思想を客観的に見る視点を養い、日本の文化や思想に関する幅広い知識を身につけ、その本質を見極めようとする努力が必要です。思想・哲学から伝統文化までその本質に触れながら日本の心を学びます。

〈科目一覧〉

- 武道文化論A・B
- 海外日本研究事情
- 日本表象文化論A・B
- 近現代日本文学A・B
- 舞台芸術論A・B
- 日本の哲学A・B
- 武道思想史
- 刀剣文化論
- 日本の文化伝統A・B
- 世界から見た日本美術A・B
- 江戸学A・B
- 伝統芸能論
- 歌舞伎・能の美学
- 日本伝統工芸研究
- 日本映画文化論A・B
- 日本の宗教A・B

武道文化論、
スポーツ・身体運動文化

長尾 進
教授

1958年、熊本県生まれ。1983年、筑波大学大学院修士課程体育研究科修了。1993年、明治大学商学部助手。2002年、商学部教授。2008年より現職。研究領域は、身体教育学、武道論。現在の研究テーマは、「武道と“国際”」。著書に『剣道の文化誌』（日本武道館、単著）『剣道を知る事典』（東京堂出版、共著）。剣道範士八段。

宗教と哲学、日本の哲学

美濃部 仁
教授

和歌山県出身。京都大学で宗教哲学を学ぶ。1992～94年、ドイツのヴッパタール大学に留学。2000年、「フィヒテにおける自己と絶対者」についての論文で京都大学より博士号。明治大学商学部助教授、教授を経て2008年より現職。研究の中心は、ドイツ観念論（とりわけフィヒテ）と京都学派（とりわけ西田幾多郎、西谷啓治）の哲学。

舞台芸術論、
日本とドイツ

萩原 健
教授

慶應義塾大学・東京大学で学び、ボン大学・ベルリン自由大学（ともにドイツ）に留学および研究滞在。元早大坪内博士記念演劇博物館助手。専門は現代の舞台芸術（主に日本とドイツ）。著訳書に『演出家ピスカートアの仕事』（単著）、『パフォーマンスの美学』（共訳）ほか。舞台通訳、字幕翻訳・制作・操作（萩原ヴァレントヴィッツ健）。

近現代日本文学

小谷 瑛輔
准教授

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。博士（文学）。富山大学人文学部准教授などを経て現職。専門は日本近代文学。著書に『小説とは何か？―芥川龍之介を読む』（ひつじ書房）、共著に『テクスト分析入門』（ひつじ書房）／『芥川龍之介ハンドブック』（鼎書房）／芥川龍之介『侏儒の言葉』（注釈・文春文庫）など。

日本表象文化論

眞嶋 亜有
准教授

国際基督教大学大学院比較文化研究科博士課程修了（学術博士）。日本学術振興会特別研究員、ハーバード大学ポストドクトラルフェローなどを経て現職。専門は近現代日本の社会・文化・心性、比較文化論、生活文化論。著書に『「肌色」の憂鬱―近代日本の人種体験』（中公叢書）、「水虫―近現代日本の栄光とその痕跡」（論文）など。

日本の宗教、
比較宗教論

Ward, Ryan M.
専任講師

1974年米国シアトル生まれ。東京大学大学院人文社会系宗教学宗教史博士課程満期退学。文学修士。東京大学死生学研究室特任研究員を経て現職。国際基督教大学、東京農業大学、東京国際大学の非常勤講師を歴任。専門は比較宗教学、近代日本仏教史。英語と日本語の論文は多数。

グローバル化の時代だからこそ、日本語を客観的に見つめ、学ぶ

国際日本学専門科目
日本語研究領域

日本語科目
日本語

日本語には、世界の諸言語と比較すると、ユニークな点がたくさんあります。日本語を体系的に学び、日本語を教える立場からも日本語を見つめることによって、日本語の面白さや難しさを再発見し、日本語に関する高度な教養と専門知識を身につけていきます。

国際日本学専門科目
日本語研究領域

現在私たちが使っている日本語とはどのような特徴を持った言語なのでしょうか。世界のほかの言語と比較することや歴史的な背景を学ぶことなどを通して、現代日本語の面白さを再発見していきます。また、外国語としての日本語教育を学ぶ「日本語教育人材育成プログラム」も設置されています。

〈科目一覧〉

- 日本語学A・B
- 日本語と社会A・B
- 日本語教育学（文法）A・B
- 日本語教育学（語彙）A・B
- 日本語教育学（音声）A・B
- 日本語の歴史A・B
- 外国語としての日本語教育法A・B

日本語学、
日本語の歴史

田中 牧郎
教授

東北大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。東京工業大学大学院社会理工学研究科博士課程修了。博士（学術）。専門は、日本語学。国立国語研究所で、言語コーパスの構築や、分かりにくい言葉を言い換えるプロジェクトに従事した後、日本語がどのようにしてできてきたかを研究している。著書に『近代書き言葉はこうしてできた』（岩波書店）、『図解日本の語彙』（三省堂、共著）など。

日本語教育学、
初級日本語

小森 和子
教授

東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程単位取得退学。博士（学術）。東京大学、九州大学、横浜国立大学、東北師範大学（中国）などで日本語教育に従事し、国際交流基金日本語試験センターで日本語能力試験の開発・分析を担当。専門は第二言語習得論。最近は、語彙の習得過程に及ぼす母語の影響と言語能力の測定に関心をもっている。

日本語教育学、
Introductory Japanese

柳澤 絵美
准教授

上智大学大学院理工学研究科博士後期課程修了。博士（学術）。アメリカの中等教育機関、および、東京大学、東京外国語大学、慶應義塾大学、亜細亜大学などの日本国内の大学で日本語教育に携わる。専門は日本語音声学。日本語の特殊拍の研究、日本語学習者のための効果的な発音指導法の開発を行っている。

日本語教育学、
留学生のための学術日本語

安高 紀子
特任講師

九州大学大学院比較社会文化学府修士課程修了。JICA青年海外協力隊日本語教師隊員として、コートジボワール、モロッコの高等教育機関、および、東京外国語大学、東京海洋大学、聖心女子大学などで、日本語教育に携わる。国際交流基金日本語試験センターで日本語能力試験の試験問題作成を担当。日本語学習者の会話能力の測定と評価に関心をもっている。

科目紹介｜日本語教育学　小森 和子 教授　柳澤 絵美 准教授　安高 紀子 特任講師

この授業では、「日本語」を「国語」という科目としてではなく、「世界の中の一言語」として捉えるところからスタートし、日本語が世界のほかの言語と比較して、どのような点で類似し、どのような点が独特なのかについて、考えていきます。授業では、日本語教師として国内外で豊富な経験を有する3人の教員が、それぞれの専門である文法、語彙、音声の3領域に分かれて、「日本語教育学（文法）」、「日本語教育学（語彙）」、「日本語教育学（音声）」を担当します。授業の中では、日本語学習者が起こす日本語の間違い、学習者が疑問に感じている不思議な日本語の表現、学習者の言語と日本語の違いなど、日本語教師が教育現場で遭遇する実際の例を紹介しながら、「普段何気なく使っている日本語」を「外国語としての日本語」と捉え、グローバルな観点から日本語を学ぶ・教える面白さや難しさについて考えます。日本語教師を目指す人にも、そうでない人にも、日本語を客観的に見つめることで言語に対する感性を磨き、自らの言語学習を振り返る良い機会になるでしょう。

日本語科目
日本語

日本の文化や社会について深く理解し、その知見や情報を発信していくためには、十分な日本語能力が不可欠です。国際日本学部では、日本語を母語としない学生を対象に、入門レベルから上級レベルまで一貫したカリキュラムで独自の日本語教育プログラムを提供し、大学での学びや研究に必要な日本語能力を養成していきます。

〈科目一覧〉

- 留学生のための学術日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- Introductory Japanese（General）
- Introductory Japanese（Vocabulary/Kanji）
- 初級日本語（総合）
- 初級日本語（語彙・漢字）
- 中級入門日本語（総合）
- 中級入門日本語（語彙・漢字）
- 中級日本語（総合）
- 中級日本語（語彙・漢字）
- 中上級日本語（総合）
- 中上級日本語（語彙・漢字）
- 上級入門日本語（総合）
- 上級入門日本語（語彙・漢字）
- 日本語能力試験対策（中級）
- 日本語能力試験対策（上級）

学生コメント｜外国人留学生のための日本語科目

国際日本学部の日本語科目を履修して、今までの日本語学習からもう一歩進んだ、これからの日本語学習のための土台を築くことができました。日本語科目の魅力は、日本語で自分の考えを表現できる機会が多いということです。今までひとりで勉強してきた日本語を思い切り使える場でした。特に、おすすめの本やドラマをクラスの友達に紹介するプレゼンテーションや、様々なテーマで行われたディベートなどは、留学生の私にとってはとても意味のある時間でした。日本語を話す機会が多いため、日本留学の意味を改めて感じることができました。また、日本語科目で参考文献の書き方、資料を引用する方法などこれからの大学生活で必要なスキルも身につけることができたため、ほかの科目の授業も無理なくついていくことができたと思います。言語としての日本語学習だけでなく、小説、随筆など日本の作品に接することで日本的な情緒と文化を感じることができる文化学習の時間にもなりました。また、お互い違う国から集まった留学生同士が、日本語というひとつの言語でコミュニケーションをとりながら、国際日本学部ならではのつながりを深めることもできました。

3年 KANG MINJOO
東京都私立
東京韓国学校卒業

Topics｜「日本語教育人材育成プログラム」

外国語としての日本語教育を学ぶ「日本語教育人材育成プログラム」は国際日本学部ならではの、理論から実践までをカバーしたプログラムです。プログラムは、修了のために必修となるコア科目と、隣接分野から選択する関連科目から成っています。コア科目は日本語と日本語教育を学ぶ科目で、「日本語学」、「日本語教育学（文法・語彙・音声）」、「外国語としての日本語教育法」です。関連科目はグローバル共生社会、日本文化・思想、英語、ポップカルチャーの分野の中から、プログラムの指定する科目を8科目以上履修すれば、どのような組み合わせでとっても構いません。コア科目も関連科目も国際日本学部の専門科目なので、プログラムのためだけに特別に履修する必要はなく、卒業要件を満たしつつ、プログラム修了を目指すことができます。所定単位を修得した修了者には卒業時に修了証が発行されます。また、より専門的な日本語教師を目指す人には、大学院国際日本学研究科でさらに研鑽を積む道もあります。ただし、現在のところ、本プログラムは文化庁が求める「日本語教育機関の告示基準」における教員要件（大学の日本語教師養成課程における主専攻、または副専攻）には該当しておりません。

グローバル社会を生き抜く英語力を獲得する

国際日本学専門科目
英語研究領域

外国語科目
英語

母語はほぼ無意識で習得できるのに、なぜ第二言語（英語）を習得するのは難しいのか。どうすれば効果的な英語学習・教育ができるのか。
また、そうした言語学などの研究に基づいた英語集中プログラムを実施しています。

国際日本学専門科目
英語研究領域

いまやグローバル社会を生き抜く上で必須の道具となっている「英語」。そもそも私たちは音と文字を使ってどのようにコミュニケーションを行っているのか（英語学）、第二言語習得のメカニズムについて、これまでどのようなことが分かっているのか（応用言語学）、日本語と英語はどのように異なり、その違いがどのように私たちの思考や行動に影響を与えているのか（社会言語学）、英語学習のプロセスにモチベーション（やる気）や学習方法はどのような影響を与えているのか（心理言語学）、英語にまつわる様々な課題について幅広く学んでいきます。

〈科目一覧〉

- 言語と文化A・B
- 応用言語学A・B
- 心理と言語A・B
- 英語学A・B

学生コメント｜言語と文化　大須賀 直子 教授

4年 鈴木 尊晴
神奈川県私立
逗子開成高等学校卒業

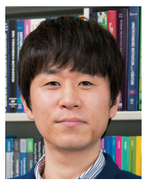
この講義では翻訳を通して日本語と英語の言語文化の相違について考察したり、言語が社会や文化とどのようにかかわっているかについて理解を深めることができます。翻訳は多言語の橋渡しの役割を担いますが、原作と翻訳を照らし合わせた時に、文化や言語の違いによる「ずれ」に気づくことができ、翻訳、そして言語と文化の奥深さを楽しむことができます。講義では、翻訳に挑戦したり、講義テーマに関する映画を鑑賞したりすることもあり、実践的に言語と文化の奥深さを学びます。また、言語と社会や文化のかかわりを様々な例から学ぶことによって、言語がいかに性別や年齢、社会階級、民族、人種、会話の場面、人間関係などの外的な要因によって変化するかを知ることができます。そして、日々の生活でもより言語と文化に関心が増すようになります。言語や文化に関心がある人におすすめの授業です。

言語と文化
大須賀 直子
教授

ランカスター大学大学院（英国）で言語学の博士号取得。現在の研究分野は、中間言語語用論、英語教育、翻訳。論文に「Development of pragmatic routines by Japanese learners in a study abroad context」（『Current Issues in Intercultural Pragmatics』John Benjamins）など。その他TOEIC®などの教材も数多く出版。

英語学
大矢 政徳
教授

1997年3月、早稲田大学大学院教育学研究科英語教育専攻修了、2002年3月、同大学大学院同研究科教科教育学専攻単位取得退学、2010年3月、School of Computing, Dublin City University 修了（Master of Science）、2014年、早稲田大学より博士（学術）取得。2011年より目白大学外国語学部教育専担専任講師、2014年10月より同大学同学部准教授。2019年から現職。専門：統語論（依存文法）、コーパス言語学（日英パラレルコーパス）



心理と言語
廣森 友人
教授

北海道大学大学院修了（博士）。専門は、第二言語学習の心理学。主要な著書に『外国語学習者の動機づけを高める理論と実践』（多賀出版）、『英語学習のメカニズム：第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』（大修館書店）、『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』（大修館書店）など。その他、海外・国内のジャーナルに学術論文を多数掲載。

英語カリキュラムの7つの特長

国際社会で活躍するためには、シチュエーション別に異なる英語力を使い分けなくてはなりません。議論の場では、明確で説得力がある自分の主張を展開でき、速いスピードで話されても相手の意見を理解できる能力。発表の場では、専門的な事柄に関して論理的にプレゼンテーションができ、理由や関連事項を詳しく説明できる能力。エッセイやレポートを書く場合は、自分の考えや情報を正確に表現でき、論旨を論理的に展開できる能力が求められます。このような英語力を外国語検定試験の数値で表すと、TOEIC®L&Rなら800点以上、TOEFL iBT®（アメリカやカナダの大学へ留学する際に要求される英語能力テスト）なら80点以上は必要となります。国際日本学部では、これらのスコアを多くのビジネスシーンをカバーできる英語力の基準と捉え、到達目標として掲げています。これらのスコアは平均的な高校生（TOEIC®L&R433点）が大学に入学して普通に英語を学習していたのでは、クリアすることはほぼ不可能です。皆さんが到達目標を達成できるように、私たちは第二言語習得理論に基づいた科学的な英語カリキュラムを用意しています。英語があまり得意でない人は得意になるように、英語が得意な人はさらに上のレベルを目指せるようにデザインされた、日本でも有数の大学英語カリキュラムです。

1. 英語漬けの毎日

1年次には、“English（Speaking）Ⅰ・Ⅱ”、“English（Listening）Ⅰ・Ⅱ”、“English（Reading & Writing）Ⅰ・Ⅱ”の必修科目の授業をそれぞれ週2回、2年次には、“Research Paper Writing”、“Speech & Presentation”（春学期）、“Advanced Reading & Writing”、“Advanced Speaking & Listening”（秋学期）を週2回、“TOEIC® PreparationⅠ・Ⅱ”を週1回受講します。2年間にわたり実施されるこの英語集中プログラムで、英語力は確実に身につきます。

2. 2年次以降の秋学期は英語圏へ留学（または、夏期語学留学）

2年次以降の秋学期には、英語圏にある国際日本学部の海外提携校へ正規の学生として留学することを目指しています。2021年度は、TOEFL iBT®のスコアがアメリカの大学が要求しているスコアに到達した学生は、1年間の英語学習の後、約180名となりました。2022年度は、約100名の学生が正規の学生として留学しました。また、1年次の夏休みから1カ月の語学留学もできます。

3. 豊富な選択科目

必修科目のほかに、Literature Reading、Practical Drama、Integrated English、TOEIC®やTOEFL®の準備講座など、英語の総合的スキルや関連分野を勉強できる選択科目が豊富に用意されています。選択科目を履修することにより、さらに英語力を伸ばすことができます。

4. 習熟度別の少人数教育

英語の必修科目のクラスは習熟度別に大きく6～7クラスずつ、3つのレベル（Gレベル、Jレベル、Sレベル）に分けられています。たとえば、Jレベルなら、クラスナンバーがJ1でもJ6でも、習熟度に差はありません。また、すべての英語の必修クラスは20名程度の少人数クラスです。したがって、どの英語のクラスでも自分に合ったレベルで、きめ細かい指導を受けられます。

5. 統一カリキュラム、統一教材

習熟度が同じレベルの学生なら、クラスが違っていても、統一カリキュラムのため同じ教材を同じ進度で勉強することになります。このシステムがあれば、クラスや先生によって、学ぶ内容、進度、指導法が違うということはありません。

6. 約10名のネイティブ・スピーカー専任教員を含む英語教育専門の教授陣

英語カリキュラムを担当するのは、約10名のネイティブ・スピーカー専任教員を含む、英語教育が専門の教員です。ほとんどの教員が、欧米の大学院でMATESL（第二言語としての英語教授法修士号）を取得している教員です。英語教育が専門である教員は、どのように指導すれば学生が効率良く英語を習得できるかを熟知しています。教室では、文法訳読方式などの言語習得に非効率な指導法は用いません。日本語を介さず、学生に英語のinputを大量に与え、学生がoutputできる機会をできる限りつくり、学生がコミュニケーションできる機会を多くつくりだします。

7. 豊富なConversation Hour

約10名のネイティブ・スピーカーの教員はConversation Hourも担当します。その時間に、学生は教員を訪問し、英語の授業での疑問点について質問したり、学習の仕方のアドバイスをもらったりして、学生が授業以外で英語を多く使えるように工夫されています。普段の授業ではなかなか話すことができない学生は、この時間を利用して、会話に慣れることができます。

出典：一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会「TOEIC®Program DATA & ANALYSIS 2021」の「Ⅶ-1. 所属学校・学年別受験者数と平均スコア」より

Rugen, Brian D. 専任教授

Brian Rugen (Ph.D., University of Hawaii) is originally from the U.S. His research areas include: literature and language teaching; discourse and identity; and, English language teacher education. As an applied linguist, he is also interested in the discourse of sport, where he uses methods of discourse analysis in examining various aspects of media discourse, sport, and identity.

McLoughlin, David A. 専任准教授

David McLoughlin has been teaching English as a Foreign Language (EFL) since 1993. He has a Doctorate in Education from the University of Exeter (UK). His research interests include: motivation in second language learning; self-regulated learning; the role of interest in the self-regulation of motivation; attribution theory and second language learning; and the role of affect in self-directed language learning.

Groff, David K. 特任准教授

David Groff is a native of Philadelphia, Pennsylvania (USA). A graduate of Pennsylvania State University (B. A. in English) and Temple University (M. Sc. in Education), his main research interests are translation studies, traditional Japanese culture and philosophy and their presentation in English, and ways in which meditative practices such as zazen may facilitate language learning. His publications include *The Five Rings : Miyamoto Musashi's Art of Strategy.*

Davies, Brett J. 特任准教授

Brett Davies received his Ph.D. in Film Studies from De Montfort University (UK) and his M.Sc. in TESOL from Aston University (UK). He has been teaching English for 20 years, with research interests in intercultural communication, course and materials design, and bilingualism in children. In Film Studies, his research focuses on adaptation and intertextuality in screenplays, with a particular emphasis on thematic connections between American and Japanese films.

Weinberg, Joel 特任准教授

Joel Weinberg is from Berkeley, California and has been teaching English in Japan since 1997. He is a graduate of the University of California Santa Cruz (B.A. English/American Literature) and Temple University (M.Sc. in Education). His research interests include promoting fluency, motivation, comprehension, and confidence in L2 reading assignments via the integration of technology into the learning process.

Ellis, Sara K. 特任講師

Sara Ellis is from Portland, Oregon. She received an M.A. from California State University and an M.A.T. from the University of California, Irvine in 2009. Her research interests include creative writing as a means to foster engagement, reflection, and language acquisition in all areas of learning. She is also interested in American and Japanese popular culture with an emphasis on science fiction and comic books.

Garside, Paul 特任講師

Paul Garside is originally from England and has been teaching English in Japanese universities since 2006. He received his M.S.Ed. in TESOL from Temple University (Tokyo Campus) and is currently working on a Ph.D. in Applied Linguistics at the same institution. He has a keen interest in all aspects of second language acquisition, although his main area of research is in the development of fluency and interactional competence.

Leto, Mario A. 特任講師

Mario Leto has a Ph.D. in ecolinguistics from the University of Gloucestershire in the UK. His research focuses on the critical analysis of discourse with the potential to affect worldviews about ecology, the natural world and the relationships that sustain life on our planet. Past research includes an examination of implicit nationalist rhetoric, representations of tourists, and attitudes toward multi-ethnic peoples.

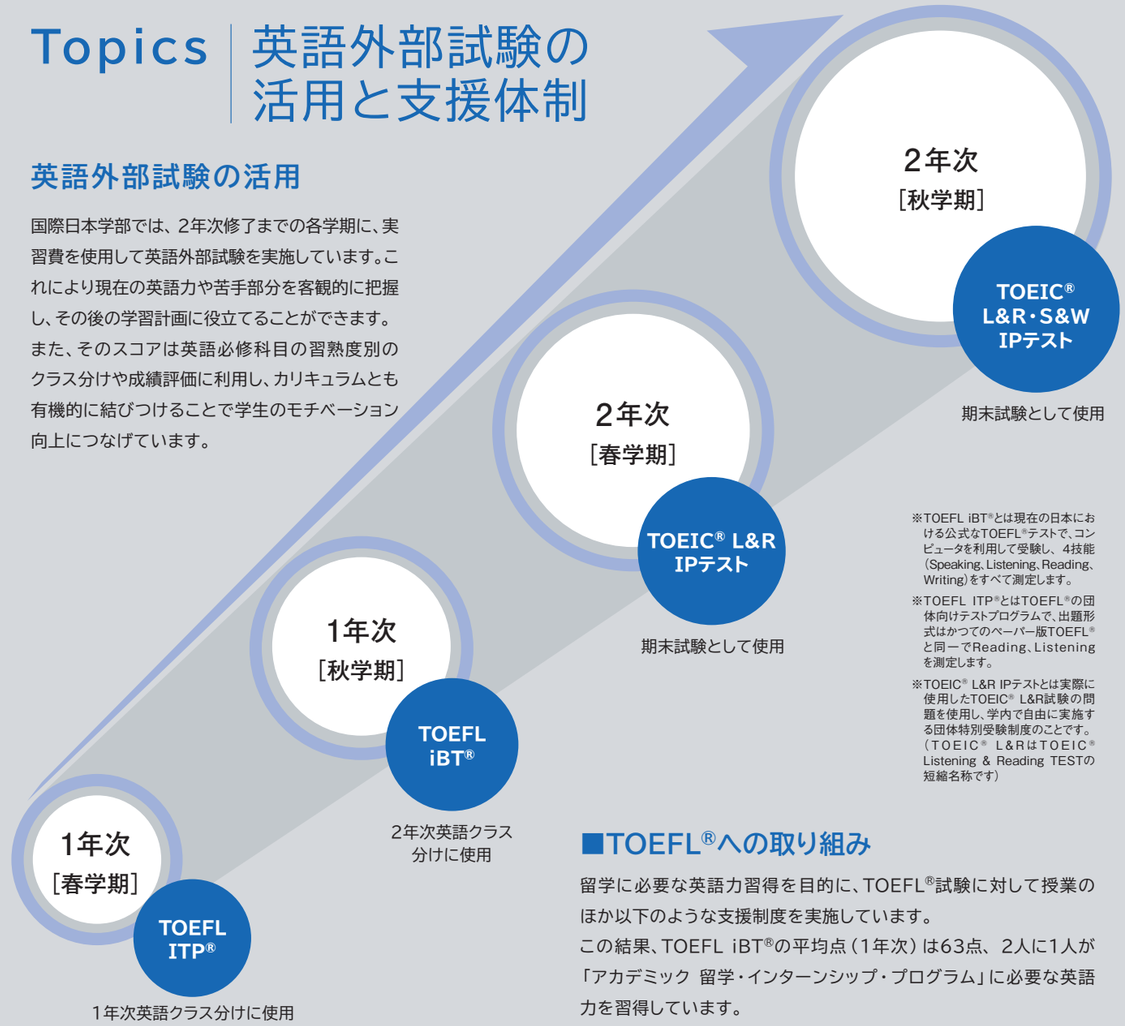
Frazier, Erin 特任講師

Erin Frazier, M.Sc. from The University of Edinburgh, has been teaching in Japan since 2010. Her research interest includes innovative materials design, using newer technologies to enhance education（AI, AR, VR）and the effects these technologies can have on sociolinguistics.

Topics | 英語外部試験の活用と支援体制

英語外部試験の活用

国際日本学部では、2年次修了までの各学期に、実習費を使用して英語外部試験を実施しています。これにより現在の英語力や苦手部分を客観的に把握し、その後の学習計画に役立てることができます。また、そのスコアは英語必修科目の習熟度別のクラス分けや成績評価に利用し、カリキュラムとも有機的に結びつけることで学生のモチベーション向上につなげています。



※TOEFL iBT®とは現在の日本における公式なTOEFL®テストで、コンピュータを利用して受験し、4技能（Speaking、Listening、Reading、Writing）をすべて測定します。

※TOEFL ITP®とはTOEFL®の団体向けテストプログラムで、出題形式はかつてのペーパー版TOEFL®と同一でReading、Listeningを測定します。

※TOEIC® L&R IPテストとは実際に使用したTOEIC® L&R試験の問題を使用し、学内で自由に実施する団体特別受験制度のことです。（TOEIC® L&RはTOEIC® Listening & Reading TESTの短縮名称です）

■TOEFL®への取り組み

留学に必要な英語力習得を目的に、TOEFL®試験に対して授業のほか以下のような支援制度を実施しています。
この結果、TOEFL iBT®の平均点（1年次）は63点、2人に1人が「アカデミック 留学・インターンシップ・プログラム」に必要な英語力を習得しています。

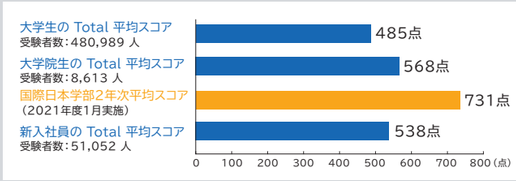
TOEFL®試験に関するガイダンスの実施

TOEFL iBT®試験の受験料を補助（上限あり）

■TOEIC® L&R への取り組み

2年次の必修科目としてTOEIC® Preparationを設置し、週1回受講します。授業の中では試験対策にとどまらず、将来のビジネスや国際社会で活躍できるよう会話やライティングなども取り入れています。また、3・4年次を対象にTOEIC® L&Rの受験料補助制度も導入しています。

■2021年度 TOEIC® L&R 団体特別受験制度（IPテスト）受験者数と平均スコア一覧



出典：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会「TOEIC®Program DATA & ANALYSIS 2022」の「Ⅶ-1. 所属学校・学年別受験者数と平均スコア」および「Ⅵ-4. 社歴別受験者数と平均スコア」より

TOEIC®はエデュケーショナル・テスティング・サービス（ETS）の登録商標です。この印刷物はETSの検討を受けまたその承認を得たものではありません。

学生コメント | 英語教育について

2年 岡部 未空
静岡県立
三島北高等学校卒業

「必然的に英語を話す環境」は海外でしか手に入らないと思っていませんか？国際日本学部の英語必修科目では、ディスカッションやグループ活動を通してとにかく実践的に英語を使います。私自身、英語でコミュニケーションする経験を授業中に何度も積み重ねたからこそ、英語力に自信を持てるようになったと感じています。少人数クラスのアットホームな雰囲気で、友人と高め合いながら学べることも魅力です。また、TOEFL iBT®など留学に必要な英語試験の対策授業も充実しており、特にスピーキングやライティングといった独学では習得しづらい分野の勉強の助けになりました。授業中分からないことがあれば先生方は快く対応してくれますし、授業外のConversation Hourも利用できます。Conversation Hourでの話題は基本的に自由なので、会話を楽しみながら英語を学べます。

総合的な教育プログラム

総合教育科目　外国語科目 第二外国語

社会人文科学、ICT(Information & Communication Technology)、日本語表現技術など幅広く学べる総合教育科目、少人数で行う演習、社会連携、実践型の科目、第二外国語などがきめ細かく用意されています。

総合教育科目

国際日本学部の総合教育科目には、国際社会における日本を考える国際交流や海外での日本研究をテーマとした自発的学習科目である「国際日本学実践科目」、コンテンツ作成や情報発信の基礎を学ぶ「メディアリテラシー」などユニークな科目が設置されています。さらに、専門科目履修の基礎となる社会人文科学、必須科目である「国際日本学入門講義」「学術的文章の作成」「アカデミック・ICTリテラシー」「スポーツ・身体運動文化」などを学ぶ科目も設置されています。

〈科目一覧〉

- 国際日本学入門講義
- アカデミック・ICTリテラシー
- 学術的文章の作成
- 国際日本学基礎演習
- 国際日本学講座
- 学術研究・キャリア開発入門
- 社会学A・B
- 政治学A・B
- 経済学A・B
- 経営学A・B
- 西洋史A・B
- 日本史A・B
- アジア史A・B
- 地理学A・B
- 統計学A・B
- 人類学A・B
- メディアリテラシー A・B
- テクスト分析A・B
- スポーツ・身体運動文化A～E
- 国際日本学実践科目A ～ E
- 国際日本学部特別講座A・B
- 国際日本学特別演習A・B
- 社会連携科目A ～ H
- 国内インターンシップ
- 海外インターンシップ
- 海外ボランティア実習
- 全学共通総合講座
- ICTエレメンタリー
- ICTベーシックII
- ICT統計解析I・II
- ICTデータベースI・II
- ICTメディア編集I・II
- ICTアプリ開発I・II
- ICTコンテンツデザインI・II
- ICT総合実践I・II
- 日本国憲法

社会連携科目

この科目は国際日本学部が行政や企業等と連携し、現代社会が抱える諸問題について取り上げます。学生の主体的な学びを推進することを目的とし、講義に加えてグループワークやフィールドワークも活発に行われます。2022年度は、中野区の都市観光、新規事業の立案、日本のインバウンド観光、ダイバーシティー社会の形成とソーシャル・ビジネス、日本のホスピタリティ・マネジメントをテーマとした授業が開講されました。これらの事業の第一線で活躍する企業等から招いた講師によって、実践的な指導を受けることができます。

メディアリテラシー

メディアリテラシーは、メディアの使用能力（発信力）、メディアの受容能力（批判的に読み解く力）、メディアの表現の能力（表現力）など複合的な能力を指しています。この授業では、利用するメディアとコミュニケーションの形態の特徴や、メディアは真実をどのように可視化するかなどについて、批判的（分析的）な視野を養います。また、メディアリテラシーの歴史や理論、日本国内での実践事例、メディアにかかわる社会的動き、海外での実践事例、SNS時代のメディアリテラシー教育について学びます。また、受講生が具体的な情報伝達の過程にかかわることを通して実践できるようになることを目指します。

外国語科目

第二外国語

国際日本学部では日本語と英語以外の言語は必修科目になっていませんが、現代の世界の物事が英語だけで理解できると考えるのは大きな間違いです。世界中のすべての人にとって、言語は文化の最大の表現であり、信頼の基盤をなすものですから、本当に世界とつながるためには言語を学ぶことが必須です。世界が広がり、ものの見え方も変わってきます。大学院に進学したり国際機関で働いたりする場合には、複数の外国語が要件になることが多いので積極的に取り組んでください。本学部では、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、韓国語のクラスを開講しています。さらに、これらの言語の会話クラスなどに加え、イタリア語、アラビア語などの言語も学部間共通外国語科目として履修できます。

〈科目一覧〉

- ドイツ語（初級）A・B
- ドイツ語（中級）A～D
- 中国語（初級）A・B
- 中国語（中級）A～D
- 韓国語（初級）A・B
- 韓国語（中級）A～D
- フランス語（初級）A・B
- フランス語（中級）A～D
- スペイン語（初級）A・B
- スペイン語（中級）A～D

演習科目：多様な学びの組み合わせを可能にする新しい演習スタイル

演習（2・3・4年）*

演習科目は大学での主体的な学びの中心となる授業です。リサーチやディスカッションを通して得られた研究成果を学内外に発表したり、学外にも開かれたイベントの企画・運営を通して、学問の探究や社会実践方法の習得を目指します。国際日本学部では学生の皆さんのニーズに応じて、1つのテーマを深く探究したり、複数の異なるテーマの演習を組み合わせて受講することもできます。教員やクラスメートとともに、皆さんの興味関心に応じた「独自の国際日本学」を創り上げていきましょう。（*一部の演習は3年次以降のみの開講となる場合があります。）

演習テーマ一覧

担当者	演習テーマ
Vassiliouk, Svetlana	Japan's contemporary foreign relations in the Indo-Pacific Region
鵜戸　聡	人文知と「近代」
呉　在烜	日本企業の研究
大須賀　直子	翻訳を通して考える言語と文化
大矢　政徳	コーパス言語学
小笠原　泰	デジタルテクノロジー革新とグローバル化による世界のGRAND TRANSFORMATIONについて考える
小野　雅琴	広告の理論実証研究
岸　磨貴子	教育工学／学習環境デザイン
金　ゼンマ	グローバリゼーションとアジア太平洋の政治経済
Quek, Mary	Problem based learning projects in the hospitality and travel industries.
琴　仙姫	Contemporary Art／Film and New Media／Curatorial Practices／Performance
小谷　瑛輔	日本の近現代文学／文化
小森　和子	第二言語としての日本語の語彙習得
佐藤　郁	観光地のマネジメント／インバウンド観光
鈴木　賢志	北欧国家の社会システムと社会心理ー日本との比較から学ぶこと

担当者	演習テーマ
瀬川　裕司	高度な批評能力を身につける
田中　絵麻	コンテンツ産業、ICT政策論
田中　牧郎	日本語の歴史と現在
旦　敬介	ラテンアメリカ研究
戸田　裕美子	日本的流通システム
長尾　進	スポーツと現代社会
萩原　健	“Performances” in Daily Life and Art Scenes
廣森　友人	外国語学習の科学：理論・研究・実践
藤本　由香里	サブカルチャー／ジェンダー／表現／社会
眞嶋　亜有	「日本とは何か」の多角的考察：日常生活からみる比較文化論
溝辺　泰雄	地域研究（Area Studies）：食と旅から世界を知る
美濃部　仁	哲学
宮本　大人	メディアと大衆文化／サブカルチャー
森川　嘉一郎	マンガ・アニメ・ゲーム／デザイン／都市
山脇　啓造	多文化共生のまちづくり
Ward, Ryan M.	「死」の日本宗教史

Topics｜岸ゼミ～日本と世界をつなぐ学生たちの取り組み～

岸ゼミでは、多様性をつなぐ教育・多様性がつながる学習環境デザインを研究テーマとし、「教育工学（Educational Technology）」を土台とした学生主体のプロジェクト型の実践および研究を行っています。そのプロジェクトのひとつに、日本とトルコに避難するシリア難民の高校生たちを情報通信技術（ICT）でつなぎ、ともに学び合う異文化間協働プロジェクトがあります。このプロジェクトは、ゼミの海外フィールドワークで訪問したトルコの孤児院で、シリア難民生徒の「日本に友達ができたら嬉しい」という声を聞いたことから始まりました。ゼミ生は、日本の高等学校を訪問し、日本とシリアの高校生をテレビ会議でつなぎ、難民となった小さな子どもたちへの支援について話し合い、活動を企画し、実施しました。ともに活動を生み出すプロセスで、両者はそれぞれに関心をもち、理解を深め、関係性を築くことになりました。岸ゼミでは、多様性を“つなげる”ための教育工学の知見を活用し、発展させながら、それを研究していきます。

世界から日本を見る留学制度

海外留学プログラム

年間約200人の学生が在学中に海外留学をする国際日本学部。
学部独自の海外留学プログラムをご紹介します。

長期留学プログラム

1・2年次に集中的に英語を学習し、留学に十分な英語力を身につけた学生は、2年次の秋学期以降にアカデミック留学プログラムやアカデミック・インターンシッププログラムに参加するチャンスがあります。留学先で修得した単位を国際日本学部の単位として認定することができるので、各種条件を満たせば、留学をしても4年間で卒業が可能です。

アカデミック留学プログラム

学部が独自で協定を結んでいる学部間協定校への留学プログラムです。現在、アメリカ合衆国・イギリス・スウェーデンの17大学・カレッジと協定を締結しています。現地の大学生と一緒に正規の講義を受けられ、また、海外大学やカレッジのキャンパスライフを経験することができます。

アカデミック・インターンシッププログラム

学部間協定校で授業を受けた後、現地でインターンシップに参加することができます。授業で学んだことを業務実習の現場で実践することができる、国際日本学部独自の人気プログラムです。プログラムによっては、インターンシップ中も適宜講義などが行われます。

短期留学プログラム

短期間の留学を希望する場合は、長期休暇を利用して語学留学プログラムや海外ボランティアプログラムへ参加することが可能です。どちらのプログラムも約3週間～4週間で、プログラムを修了すると単位が認定されます。なお、このプログラムは1年次の学生も参加が可能です。

夏期語学留学

学部間協定校にて、約4週間、集中的に英語を学ぶプログラムです。英語力によりクラス分けがされ、自分に合ったレベルで学習することができます。世界各国から集まる留学生とともに、英語でのコミュニケーション能力向上を図ります。

海外ボランティア

約3週間、同世代の現地学生とともにボランティアに参加できるプログラムです。プログラムを通じて、ボランティアやSDGsのこと、そして、異文化への理解と適応力を養成することを目的としています。

スケジュール（2024年に長期留学プログラムで留学する学生の場合）

2023年10月下旬	募集開始
2023年11月中旬	申し込みの締切り
2023年11月中旬～12月中旬	学部内での選考
2024年2月中旬	派遣先へ推薦（インターンシップ留学以外）
2024年2月～3月	インターンシップ先担当者による インターンシップ留学面接選考

2024年3月～4月	派遣先大学へ出願
	留学先から受入許可
2024年4月	国際日本学部外国留学奨励助成金の申請
2024年7月	選抜により派遣学生に助成金支給
2024年8月～10月	留学先に出発
2024年12月末～翌年6月末	帰国
2025年10月	帰国報告会

※スケジュールは変更となる場合があります。
※新型コロナウイルス感染症等の状況によっては、海外留学プログラムを実施できない可能性があります。

長期留学プログラム　アカデミック留学プログラム協定校

アメリカ合衆国 United States of America

オレゴン大学
ニューヨーク州立大学ニューパルツ校
エドモンズカレッジ
エベレットコミュニティカレッジ
グリーンリバーカレッジ
ピアスカレッジ
ショアラインコミュニティカレッジ
ビュートカレッジ
フットヒルカレッジ
オローニカレッジ
ハワイ大学 カピオラニコミュニティカレッジ
コントラコスタカレッジ
ディアブローバレーカレッジ
ロスメダノスカレッジ

イギリス United Kingdom

オックスフォード大学 ハートフォードカレッジ

スウェーデン Sweden

ルンド大学
セーデルトーン大学

ルンド大学

オックスフォード大学
ハートフォードカレッジ

アカデミック留学プログラム体験記｜ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ

ホスピタリティを学ぶため、観光地として有名なハワイに留学。教授はホスピタリティ業界で働いていた経験がある方々が多く、ホスピタリティとツーリズムを学ぶには最高の環境でした。また、ホストファミリーをはじめ、様々な人と交流していく中で日本の魅力を再発見。自身の将来を見つめ直すきっかけにもなりました。コロナ禍で制限もありましたが、ボランティアなどにも積極的にチャレンジし、記憶に残る留学生活になりました。

留学期間：2021年8月～ 2022年5月
3年 柳沢 未羽（千葉県私立東邦大学付属東邦高等学校卒業）

アカデミック留学プログラム体験記｜グリーンリバーカレッジ

2年次の9月からアメリカのワシントン州にあるグリーンリバーカレッジへ。世界中の人と円滑に交流ができるように、コミュニケーション学の授業を中心に選択。発言の機会が多かったことやグループディスカッションに取り組んだことが、特に成長につながりました。留学中は、１つの部屋に4人暮らし。ルームメイトであるインドネシア、中国、オランダからの留学生や他の部屋の人たちと、日々の生活の中で異文化交流ができ、良い経験となりました。

留学期間：2021年9月～ 2022年6月
3年 阿部 亮（東京都立町田高等学校卒業）

長期留学プログラム　アカデミック・インターンシッププログラム協定校

フロリダ州立大学

ウォルト・ディズニー・ワールド提携 アカデミック・インターンシッププログラム（有給）

フロリダ州立大学（FSU）で約10日間の導入授業を履修後、ウォルト・ディズニー・ワールドで実際に働きます。プログラム参加には、学部内選考に加えて、ディズニー社採用担当者による最終面接通過が必要です。

アカデミック・インターンシッププログラム留学体験記｜ウォルト・ディズニー・ワールド

「Make magic」という言葉を胸に、お客様の経験をより良いものにするため、仕事に取り組みました。世界中から訪れるゲストに「ありがとう」と言ってもらえた時の感動は、今でも忘れられません。初めは言語の壁に苦戦しましたが、ルームメイトや職場の同僚との交流を通じて語学力が向上。また、明治大学の仲間たちに支えられ、より充実した日々を過ごせました。異文化に身を投じた半年間は私の自信につながり、自分の価値観や将来の考え方に良い影響を与えてくれました。

留学期間：2019年8月～ 2021年1月
卒業生 高橋 一生（東京都私立獨協高等学校卒業）

短期留学プログラム

海外ボランティア協定校

ブディルフール大学（インドネシア）

ジャカルタ西部に位置し、1979年に創立された私立大学。学生間交流や日本語・英語教師アシスタントなどのボランティア活動を通じて、社会的な課題やSDGsなどに目を向けていきます。そして、現地の学生と一緒に活動を行うことで相互理解を深め、多文化社会への適応力を高めることを目指します。

海外ボランティア体験記 ｜ ブディルフール大学

初めて海外ボランティアに臨み、参加前はインドネシアでの生活と言葉の面で不安がありましたが、充実した3週間を送ることができました。小中学校や特別支援学校で日本文化を伝えるボランティアや、ごみ拾いとリサイクル雑貨の製作など、様々な活動を行いました。ブディルフール大学の学生と英語を使って訪問先での企画を考えたり、意見交換をしたりすることで、活動を成功させることができました。活動がない日も彼らと一緒に過ごし、インドネシアの食文化、イスラム教、伝統芸能について教えてもらい、実際に体験をしました。バックグラウンドが異なる同世代との活動は自分の視野が広がる貴重な経験となり、同時にかけがえのない友人がつくれました。

留学期間：2019年8月
4年 浜田 瞳（千葉県立成田国際高等学校卒業）

短期留学プログラム

海外ボランティアプロジェクト

ICYE主催海外ボランティアプログラム

ICYE JAPANが実施している海外ボランティアプログラムのうち、学部が指定したものに限り、国際日本学部海外ボランティアプロジェクトとして、諸条件を満たした場合に単位認定の対象としています。2022年度春季はベトナムでの児童福祉ボランティアとインドネシア日本語教育ボランティアが対象となりました。

海外ボランティア体験記 ｜ ICYE主催海外ボランティアプログラム

セブ島コルドバの小さな地域病院で約1カ月ボランティアをしました。このプログラムの特徴はほとんど日本人がいない環境の中、渡航から全て自己責任で行うことです。最初は不安で、実際に現地ではハプニングもありました。しかし、それ以上にたくさんの人と出会い、セブの海でジンベイザメと泳いだりと、本当に毎日楽しく、人生で最も充実した夏休みになりました。なにより、一人で海外に行き、辛いことも乗り越えることができた自分に自信が付きました。たった1カ月で価値観が大きく変わるということは難しいとは思いますが、日本という囲いを離れて違う世界を見ることで、これからの人生において刺激となる経験ができました。

留学期間：2022年8月
2年 山本 陽菜（岡山県立倉敷南高等学校卒業）

短期留学プログラム

夏期語学留学協定校

トロント大学（カナダ）

1827年に創立。カナダの最高学府として世界に知られています。キャンパス内には大規模な語学研修機関があり、世界各国からの留学生が英語を学んでいます。同国の文化・社会の学習を通じて主に英語力の向上を図ります。

語学留学体験記 ｜ トロント大学

本プログラムは、トロントでの1カ月間の英語語学研修です。トロントは文化的・民族的な多様性を享受する街で、当時大学1年生であった私には、目に入るものすべてが衝撃的で真新しいものでした。たとえば、ホームステイ先のご家族はフィリピン出身の方々だったため、カナダにいながら、バナナの素揚げというフィリピンの「食」を体験することができました。また、トロント大学では中国や韓国からの留学生と触れ合う機会が多く、生活様式の違いについて何度も話し合いました。トロントでの経験は、ひとつの地域に様々な文化が共存する多様性や、自分と相手の文化の双方を尊重する異文化理解の重要性を私に教えてくれました。

留学期間：2019年8月
4年 山内 竜（神奈川県立大和高等学校卒業）

留学Q&A

Q 海外留学のための カリキュラムはありますか？

A. 国際日本学部では、留学先での学びが円滑に進むよう、英語教育に力を入れています。 1年次では週6コマ、 2年次では週5コマ、必修授業があり、多数のネイティブ教員が担当する20名程度の少人数クラスで学びます（英語教育についてはP.15～18参照）。また、「海外留学入門」、「異文化間教育学」、「国際教育交流論」といった留学関連の科目も設置しています。

Q 毎年、何名程度の学生が留学しますか？ 留学希望者は全員、参加できますか？

A. 2019年度、明治大学全学の協定留学プログラムおよび学部間の協定留学プログラムに参加した国際日本学部の学生は約200名（短期プログラム含む）です。留学希望者は、学内選考（アカデミック・インターンシッププログラムの場合は、各インターンシップ先との面接もあり）を受け、合格した留学先のプログラムへ参加することとなります。毎年希望者の約80%が留学しています。

Q 海外留学関連費用はどのようなものがありますか？ また留学費用のサポートはありますか？

A. 留学中の明治大学学費に加えて、留学に関連してかかる費用は、派遣先大学の授業料および生活費があります。そのほかにビザ申請料、航空運賃、海外旅行保険代金などが必要となり、為替レートの変動、現地での生活スタイルにより大きく変動しますので、事前にきちんと計画を立ててください。また、留学費用のサポートに関しては、国際日本学部アカデミック留学・インターンシッププログラム参加者に対し、経済的負担を軽減する目的で「国際日本学部外国留学奨励助成金」という選抜により助成金を支給する制度があり、助成金申請者のうち約85%の学生が支援を受けています。

Q 留学先での安全管理は どうなっていますか？

A. 海外留学準備を目的とした授業「海外留学入門」の履修、事前研修、各種資料の配布などで学生が現地でトラブルに巻き込まれないための予防策、また万が一巻き込まれた場合の対処法などについて説明をしています。さらに、海外での学生生活の不測の事態に備え、学部独自に危機管理の専門会社と契約し、学内各部署や保険会社、旅行会社などとも連携できるように、安全管理策を講じています。

さらに詳しく知る

学部間協定校の情報や留学費用、各プログラムの募集要項などはホームページをご覧ください。
https://www.meiji.ac.jp/nippon/study-abroad5.html

多文化共生キャンパスの創成

世界から集う学生（国際交流）

豊富な国際経験を有した国内の学生や多様な文化的背景を持った外国人留学生を積極的に受け入れています。学生たちは、多文化コミュニティーの中で国籍や民族などの違いを越えてともに学び、外国語能力や異文化理解力を磨きます。

国際日本学部は、明治大学の中では比較的小さい学部ですが、多様な文化的背景を持った学生たちがともに学ぶ多文化共生キャンパスを実現するために、アジアを中心に世界中からの留学生受け入れを積極的に推進しています。現在、学生の約18%が海外からの外国人留学生ですが、2020年度から留学生入試のⅠ型とⅡ型の併願を可能にするなど、門戸を広げることで、外国人留学生の比率を少しずつ上げ、3割に到達させることを目指しています。学部の授業の中には「海外留学入門」、「異文化間教育学」、「多文化共生論」、「移民政策論」など、国際交流に関連した科目がいくつも置かれ、国際交流の理論と実践について、日本人学生と外国人留学生ともに学ぶことができます。また、「国際日本学実践科目」というユニークな科目が配置され、国際交流をテーマにした講演会やフォーラムなどを学生自身が企画し、運営することもあります。授業外でも留学生対象の就職活動行事の実施や、留学生が日本での大学生活をスムーズに送るための日本人学生サポーター制度など、留学生に対するサポート体制を充実させています。

留学生在籍数

約240人

※2022年3月時点
※交換留学生含む

英語で行われている講義の数

約110講義

※年度・学期により異なる

Topics｜イングリッシュ・トラック

イングリッシュ・トラックは、国際日本学部で提供している100余りの英語による授業を履修し、4年間で卒業できる英語学位プログラムです。本プログラムは、2011年度に外国人留学生を対象にスタートしましたが、国籍を問わず、より多様な背景をもった皆さんを受け入れられるように改組し、2017年度からは日本国籍をもつ学生もこのプログラムで学んでいます。
世界中から集まったイングリッシュ・トラックの学生は、英語を共通言語として相互理解を深めています。また、日本語学位プログラムの学生も英語で行われる授業で一定の単位数を修得する必要があるため、授業内でプログラムの垣根を越えた交流も積極的に行われています。

学生主体の国際交流

学生団体「国際日本学部学生委員会（GJSSC）」を中心に、様々な国際交流イベントや活動を実施しています。正規留学生・交換留学生ともに多く在籍する国際日本学部ならではの雰囲気を楽しむことができます。

〈活動例〉

- 留学生歓送迎イベント
- 留学生サポーターボランティア
- かるた、書き初め体験
- スポーツ大会
- 観光地巡りイベント
- 忘年会

GJSSCへの
インタビュー記事はこちら

学生コメント｜国際日本学部学生委員会（GJSSC）

国際日本学部学生委員会（GJSSC）は、国際交流イベントの開催や留学生と委員会メンバーのパートナー制度を通して学生同士の交流を促進する、国際日本学部公式の団体です。昨年度は運動会やカードゲーム大会、浅草観光など様々な楽しい企画を実施し、多様な学部・国籍の学生にご参加いただきました。また、委員生と留学生がペアとなり互いが深くかかわることができるパートナー制度は、留学生が日本での生活を送る上で抱える不安に寄り添うだけでなく、日本での初めの友達として留学生を暖かく迎える役割を担っています。これらの委員会の働きを務める上で、私たちは「留学生の限られた日本での時間を充実したものにするお手伝いをすること」「留学生がもたらす新鮮な知見を日本人学生に還元すること」「国籍・文化の壁を越えた交流を促し中野キャンパスを活気あふれる場所にすること」を達成するためにできることを常に模索しています。GJSSCの活動は、イベントの参加者だけでなく委員生にも非常に良い刺激を与えてくれています。活動を通して今まで想像もしなかったほど多くの人に出会い、価値観が180度変えられるような経験をたくさんさせていただきました。そして何よりも、身近な人を喜ばせることがこれほどに嬉しいことなのだと実感しています。

2年 柿沼 舞香
東京都私立明治大学付属
中野八王子高等学校卒業

国際交流・国際日本学関連科目

海外留学入門

この授業は、アカデミック留学プログラム、アカデミック・インターンシッププログラム（P.21-24）や大学の協定留学など多様な海外活動を目指している学生の支援を目的にしています。留学準備を時系列的に、Ⅰ.留学に関する理解、Ⅱ.留学先選定から申請手続き、Ⅲ.渡航準備から異文化適応の3段階に分けて学びます。留学期間をより効果的に過ごし、初期の目的を効率良く達成できるようにカルチャーショックの克服やリスク回避など、渡航先での生活適応に必要な情報やスキルを習得します。

国際日本学実践科目

国際日本学実践科目では、国際交流を推進するための行事の企画実施や、国際日本学に関する調査研究、日本文化や社会に関するフィールドワークなどに日本人と留学生が取り組みます。

〈科目例〉（年度によって異なる場合があります）

- 「茶道」の歴史や思想を学び、茶会を体験する
- 浅草や鎌倉をまわりながら宗教と生活のかかわりについて学ぶ
- スピーチコンテストや国際交流フォーラムを企画・実施する

ONLINE 座談会

国際日本学部での学びとは？

ー 多様な国際交流を通じ、豊かな素養を持ったグローバルな人材を育成 ー

国際日本学部長
鈴木 賢志

埼玉県私立川越東高等学校卒業
3年 熊木 裕一

東京都千代田区立
九段中等教育学校卒業
3年 長尾 柚花

Collège du Chaney卒業
2年
AMES NOAH KITAMURA

単なる語学習得にとどまらない幅広い学びを求めて入学。

鈴木 賢志学部長（以下、鈴木）　まず、皆さんが国際日本学部を志望した理由から聞かせていただけますか。

熊木 裕一さん（以下、熊木）　昔から英語が好きで、大学入学前に英検準一級の資格を取得するほど熱中していました。最初は中学校か高校の英語教諭になろうと考えていましたが、いつしか英語を使ってもっと色々学びたいと思うようになり、国際日本学部に進みました。

長尾 柚花さん（以下、長尾）　出身高校が英語教育に力を入れていたため、国際日本学部の存在は以前から知っていました。中学校時代にオーストラリアへの留学を経験したのですが、当時は全く英語を話せず…。元来、負けず嫌いな気質で語学力を伸ばしたいと思い、この進路を選びました。それから、コロナ禍で実現に至りませんでしたが、アメリカのウォルト・ディズニー・ワールド提携アカデミック・インターンシッププログラムに参加できる点も魅力に感じていました。英語を実践的に使える機会がある大学という観点で、進学先を選びました。

AMES NOAH KITAMURAさん（以下、AMES）　私はスイスと日本の両方の国籍を持っていますが、日本に住んだ経験はありませんでした。「自分のルーツである日本についてもっと知りたい」「日本のポップカルチャーに触れたい」と思い、国際日本学部への留学を決意しました。学部の授業を通して、日本の魅力を深掘りでき、想像以上に充実した生活を送ることができています。それから、語学力や専門性を養うことも大事ですが、「自分なりの武器を磨きたい」という思いもあり、カリキュラムの自由度が高い国際日本学部を選んだという理由もありましたね。

コロナ禍にも負けず ポジティブな国際交流を。

鈴木　皆さんそれぞれが異なる背景や志望動機を持っているんですね。では、入学後の率直な感想を聞かせてください。

熊木　留学を楽しみにしていたのですが、コロナ禍の影響でタイミングを逃してしまいました。ですが、国際日本学部の学生が運営する「国日放題」の活動に参加できたことは、すごく良い経験です。国際日本学部は留学生も日本人学生も、興味のある事柄や学んでいる分野がバラバラで、バラエティ豊かな学部です。そんな国際日本学部の学生一人ひとりの活動に焦点を当て、学生および学部の魅力をアピールできるコンテンツをつくる、それが国日放題の活動です。現在は25 ～ 30人のメンバーをリーダーとしてまとめていて、SNS経由で感想をいただくと、とてもはげみになります。個性豊かな人たちと一つのコンテンツをつくりあげ、リーダーシップを発揮する重要性や面白さについて手応えを感じています。

国日放題のHPはこちら

長尾　私もコロナ禍で志望理由の一つでもあったアメリカのディズニー・ワールドへのインターンシップに行けず、悔しい思いをしました。そんな私に先生方が勧めてくださったのが、ヨーロッパへの留学でした。留学したのはポーランドのウッジ大学で、現地にはポーランドの学生だけでなく、色々な国からの留学生がきていました。日本との文化の違いを感じるとともに、それぞれの視点での意見を聞けて、大変勉強になりました。現在学びたいと思っている分野や進路も、留学時の経験がきっかけになっています。国際日本学部に入らなければポーランドには留学しなかったと思います。日本では異文化理解について主に学んでいましたが、ウッジ大学では経済学、そして交渉相手と友好的かつ効率的、効果的な交渉ができるスキルであるビジネスネゴシエーションについて学びました。当時の経験を生かし、海外の大学院に進学したいと考えるようにもなりました。国際日本学部に入って、将来の可能性が大きく花開いたように思います。

日本から世界、世界から日本を見つめ 新たな魅力を再発見。

長尾　ポーランドから帰国して自分の目標が具体的になるとともに、改めて日本という国についても勉強したいと思うようになりました。現在、鈴木先生のご担当されている「日本社会システム論」で日本社会の制度などについて、改めて学んでいるところです。

鈴木　日本から海外に出た留学生が直面する課題に、「留学先で外国人に日本のことを聞かれても思うように答えられない」というものがあります。そのため、留学後に新たな視点で日本について学び直そうと、基礎的な科目を履修する人もいます。長尾さんが現在受講している「日本社会システム論」は本来1・2年次で履修する授業でしたが、海外から日本に戻ってきた学生が新たな視点で学び直せるように、4年次まで自由に履修できるカリキュラムへと変更しました。なるべく他の授業についても、学年の壁を設けずに留学者を意識したものにしていきたいと考えています。

AMES　留学生の私の視点から見ても、国際日本学部は日本の魅力を再発見できる学部です。専門性を持った先生方から日本について教えていただくことで、ただ知識として知っていた日本の良さ（たとえば医療制度の充実度、和食のおいしさなど）の裏付けが取れ、深い理解へとつながりました。最初は日本のポップカルチャーに興味があったのですが、今では日本の政治や経済、教育など別の方向にも興味を持つようになりました。一見何気ないアニメのシーンの背景に社会問題が隠れていることもあると授業で学び、それまで点と点だった日本の知識がきれいな線を描き、興味深く思ったものです。

国際×〇〇の掛け算的思考で 新たなステージへと飛躍。

長尾　日本の魅力を再認識することはもちろん、先ほどのKITAMURAさんのお話にもあったように、国際日本学部は興味の幅を広げていける学部だと思います。ポーランドに留学するまでは将来は観光業に就きたいと思っていたので、留学当初は言語学などコミュニケーション系の科目を主に選択していました。そんな中、偶然選択した経済系の授業が興味深く、もっと学んでみたいと思うようになり、大学院の授業にも参加させていただきました。国によってマーケティングの方法も違うので、その国のバックグラウンドを知ったうえで交渉事を行うと面白い成果が得られるのではないかと考えています。留学前に国際日本学部で異文化理解について学んでいた経験や人と話すことが好きであるという自分の性格を生かせるので、自分に向いている研究内容だと実感しています。現在は国際日本学部で日本だけでなく、アジアやヨーロッパ諸国についても学んでおり、その知識を糧に自身の専門分野を確立できれば良いと考えています。

鈴木　最近は長尾さんのように、海外の大学院を志望する学生が増えてきました。実は国際日本学部の卒業生は世界各地の大学院で活躍しています。大学で幅広く学ぶ中で、探究していきたいフィールドを見出し、世界の大学院で専門性を深めていっています。また、就職を選んだ卒業生の企業からの評判も上々です。ただ英語を学んだ、留学したということではなく、そこから自分のやりたいことを見出し、自信を持って国際日本学部で何を勉強したのかを伝えられることもとても大切なんですよね。専門性だけでなく、発想力やコミュニケーション能力も企業が求める素養です。専門性のある学部だと、誰でも端的に在学中に何をやっていたのか答えられますが、国際日本学部には事前に何かが用意されているわけではない。在学中から自分が何を学ぶべきなのか自主的に考える4年間を過ごし、卒業時には「自分はこれを頑張れた」と強い自負を持てるのだと思います。卒業生には、在学生が「自分なりのキャリア」を描くためのヒントになる、サポーターのような存在になってくれるよう望んでいます。

三者三様の国際日本学部に対する思い、描く将来像。

長尾　国際日本学部は多様な科目を選択でき、そこから豊かな知識を身につけられる学部です。幅広い学びの中で多方面にアンテナを張り、今後も自分の成長の糧としていきたいです。「国際日本学部を選んで後悔することは絶対にない!!」と言い切れるので、ぜひここで貪欲に勉強に励んでください。

熊木　入学後、鈴木先生をはじめとする様々な先生方の授業を受講して以来、海外志向が高まる一方です。一度日本を出て異なる視点から自分の国を見つめ直したい。国日放題のリーダーとして活動した経験を生かし、いずれは世界を舞台に活躍する、そんな生き方をしてみたいなと考えています。

AMES　大学での学びを通して、物事を多角的かつ客観的にとらえることの大切さを認識するようになりました。今後もその姿勢を忘れずに、より知識を深めて多くの人と交流を重ねたい、視野を広く持っていたいです。日本をこれまでとは違った視点でとらえなおせると思いますので、新たな価値観や考え方に触れたい人は、ぜひ国際日本学部へ!!

キャリア形成

明治大学では、「就職キャリア支援センター」において、学生の皆さんに能力や特性を生かすことのできる進路や職業を選択してもらうための支援業務を行っています。具体的には、個人・グループでの就職・進路相談、就職筆記試験や面接対策講座、インターンシップ関連支援、各種セミナーなどを行っています。また、国際日本学部でも、学部独自のキャリア支援として、留学生やイングリッシュ・トラック学生を対象としたイベントを開催したり、インターンシップ参加に対して単位を付与するなど、学生のキャリア形成を積極的にサポートしています。

主な支援行事

1〜2年次	4月	キャリアデザインガイダンス
		インターンシップガイダンス
	5月	公務員ガイダンス
	5〜7月	インターンシップ事前研修
	5〜12月	企業協力 PBL（課題解決型）講座
	8月	Meiji Job Trial
	10月	公務員ガイダンス
3年次	4月	進路・就職ガイダンス
		インターンシップガイダンス
		自己分析講座
	5月	コンピテンシー診断
		ES 対策講座
		筆記試験対策講座
		選考対策講座
		公務員ガイダンス
	6月	WEB テスト説明会
		インターンシップ学内合同企業セミナー
	6〜7月	グループディスカッション実践講座
		模擬集団面接講座
	7月	ビジネスマナー講座
	10月	進路・就職ガイダンス
		自己分析実践セミナー
		自己 PR チェックセミナー
	10〜12月	ES 対策講座
		業界・仕事研究セミナー
	10〜2月	OB・OG 懇談会
	11月	B to B 企業研究セミナー
		筆記試験対策講座
	11〜1月	グループディスカッション実践講座
	12月	女子学生のためのキャリア準備セミナー
		企業見学会
		U・I ターン講座
	12〜1月	コンピテンシー診断
	1月	就活直前対策講座
	1〜2月	業界研究会
		企業人講師による模擬面接会
	1〜3月	オンライン交流会
4年次	6月	納得就活ガイダンス
	6〜3月	学内採用説明会・選考会（随時開催）

※スケジュール・行事は変更となる場合があります。

就職キャリア支援室

1年次から随時進路相談を行うなど、数多くのキャリア支援行事を開催。「入口から出口まで」の一貫した支援体制を構築し、学生一人ひとりの「個」に合わせたキャリアデザインをサポートします。

支援行事の様子

内定者による就職活動相談会や内定報告会などを開催しています。ひとつのキャンパスで1年生から4年生が学ぶ強みを生かして、同じ学部の先輩学生が就職活動中の学生をサポートする取り組みを行いやすいことも特長のひとつです。

Topics 資格取得

専門的な資格を取得し、将来の進路に生かしたいと考えている皆さんのために、本学では学部の授業に加え、所定の単位を修得することにより、教員免許状・学芸員・社会教育主事・司書・司書教諭の5つの資格を取得することが可能です。

本学部で取得可能な教員免許

- ●中学校および高等学校教諭一種免許状「英語」
- ●中学校教諭一種免許状「社会」
- ●高等学校教諭一種免許状「地理歴史」「公民」

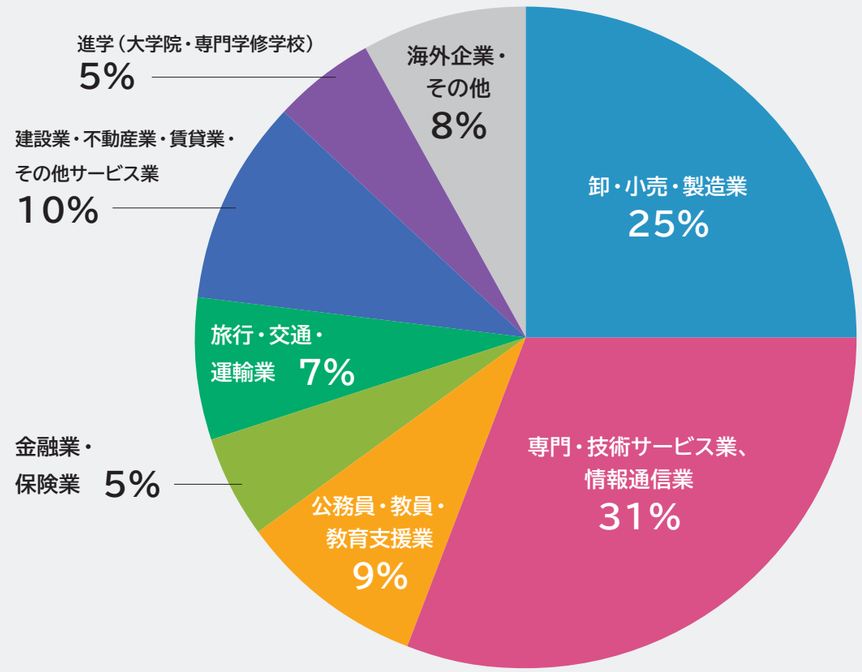
Topics 大学院国際日本学研究科

国際日本学部で得た知識をより高度に発展させ、国際社会で広く活躍できる人材の養成を目的として、大学院国際日本学研究科を設置しています。本研究科には、ポップカルチャー研究、日本企業・社会システム研究、多文化共生・異文化間教育研究、日本語学・日本語教育学研究、英語教育学研究、文化・思想研究といった幅広い研究領域があり、それらの有機的関連の中で研究のさらなる深化を図るとともに、他研究領域とも積極的に交流し、時代に即応した人材を育成します。

就職実績

国際日本学部は、日本の文化や社会に対する深い理解と国際的な感覚をもち、21世紀のグローバル社会で活躍できる優れた人材を育成することを目指しています。また、国際化する日本企業ではグローバルマインドをもつ人材がますます求められており、国際日本学部への関心も高まっています。業種別就職状況から分かるとおり、商社、銀行、マスコミ、製造業、公務員など、将来の活躍の場は多岐にわたります。

2022年度 国際日本学部卒業生
業種別就職状況



主な就職先

卸・小売・製造業

- ●住友商事株式会社
- ●双日株式会社
- ●任天堂株式会社
- ●ユニバーサルミュージック合同会社
- ●パナソニック株式会社
- ●サッポロビール株式会社
- ●アマゾンジャパン合同会社
- ●富士通株式会社
- ●株式会社ユニクロ
- ●ENEOS株式会社

金融業・保険業

- ●株式会社三井住友銀行
- ●株式会社千葉銀行
- ●株式会社イオン銀行
- ●三菱UFJ国際投信株式会社
- ●三井住友海上火災保険株式会社
- ●野村證券株式会社
- ●明治安田生命保険相互会社
- ●オリックス生命保険株式会社
- ●日本生命保険相互会社
- ●第一生命保険株式会社

専門・技術サービス業、情報通信業

- ●株式会社NTTドコモ
- ●楽天グループ株式会社
- ●株式会社電通
- ●株式会社博報堂
- ●アクセンチュア株式会社
- ●株式会社インテック
- ●株式会社日立インフォメーションエンジニアリング
- ●キヤノンITソリューションズ株式会社

旅行・交通・運輸業

- ●株式会社JTB
- ●株式会社星野リゾート
- ●日本航空株式会社
- ●日本通運株式会社
- ●東日本旅客鉄道株式会社
- ●小田急電鉄株式会社
- ●郵船ロジスティクス株式会社
- ●日本貨物航空株式会社

公務員・教員・教育支援業

- ●教員
- ●国家公務員
- ●地方公務員（県庁・市役所・区役所等）
- ●株式会社ベネッセコーポレーション

建設業・不動産業・賃貸業・その他サービス業

- ●鹿島建設株式会社
- ●三菱地所レジデンス株式会社
- ●三井物産トレードサービス株式会社
- ●パーソルキャリア株式会社
- ●株式会社ネオキャリア

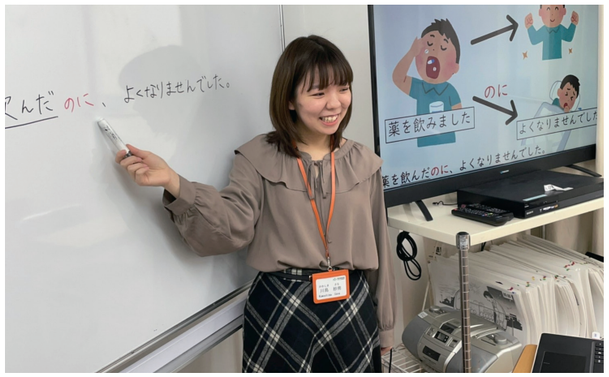
※業種等の区分は中野教務事務室（国際日本）基準による。

卒業生メッセージ

多様な分野に触れることで見つけた将来像。

川島 紗南 2021年卒業
ミッドリーム日本語学校 勤務

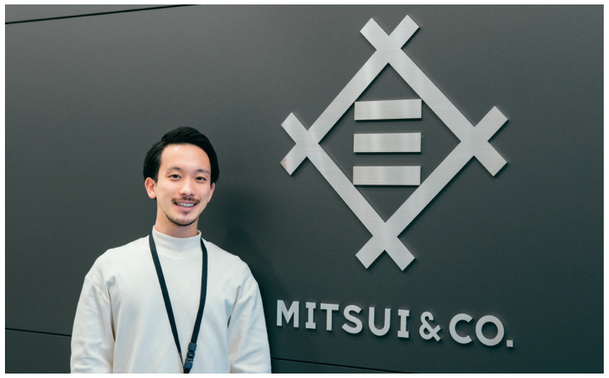
勤務先では現在、初級〜初中級のレベルの授業を担当し、また、専任講師として授業以外にも幅広い業務に携わっています。日本語教師という職業があることは高校時代から知っていましたが、本格的に目指すことを決めたのは、国際日本学部で開講されている色々な科目を履修する中で、特に日本語教育学や言語学関連の科目が面白いと感じたことがきっかけでした。多様な分野に触れることのできる国際日本学部は、自分の興味のあることを深めるのはもちろん、新たな興味・関心を見つけるのに最適の場所です。私自身、4年間の大学生活で得た知識や経験は、どれも今の自分に生きていると感じています。皆さんも国際日本学部で自分の可能性を広げてみてください。



世界を舞台にした新規事業創造に携わる。

鶴田 拓夢 2021年卒業
三井物産株式会社 勤務

「世界を舞台に新しい事業を創りたい」という強い想いを叶えるために三井物産に入社しました。入社後は、デジタル総合戦略部というDX(デジタルトランスフォーメーション)案件の推進を行う部署に配属になり、現在は、アフリカとインドネシアでの新規事業に携わっています。在学中は、物々交換を頼りにヨーロッパを旅する世界大会に参加したり、1年間休学してスタートアップで働いたり、自分で事業をしたりと、学部・学内にとどまらず過ごしていました。皆さんの意志を尊重し、全力で応援してくれる教員や職員、ともに切磋琢磨できる仲間が集う最高の環境で、comfort zoneを飛び出し、自分の道を切り拓いていってください。



学部で得た知識を生かし、映画やゲームなどの日本語吹替版を制作。

木谷 凪沙 2018年卒業
ACクリエイト株式会社 勤務

幼い頃から映画やアニメ等のサブカルチャーに親しんできた私にとって、国際日本学部での経験は人生の財産だといえます。現在の職場では、NetflixやAmazon、Sonyなどが手掛ける映画やドラマ、ゲームの日本語吹替版制作を行っています。翻訳者さんの作成した原稿の内容や日本語音声のイントネーションの確認など、大学で学んだ言語や文化の基礎知識が大いに役立つ仕事です。憧れの声優さんや演出家と一緒に仕事ができることはもちろん、自分で提案した台詞が現場で読み上げられた時、担当作品がSNSなどでトレンド入りした時は嬉しく、やりがいを感じました。私が英語を学ぶきっかけとなったディズニー・チャンネルの作品を担当できたことは一生の思い出です。吹替版を主に見てくれる子どもたちに、海外の文化や歴史、価値観などを楽しく身近に感じられる機会をこれからも与えていきたいと思います。

中野キャンパス

国際化

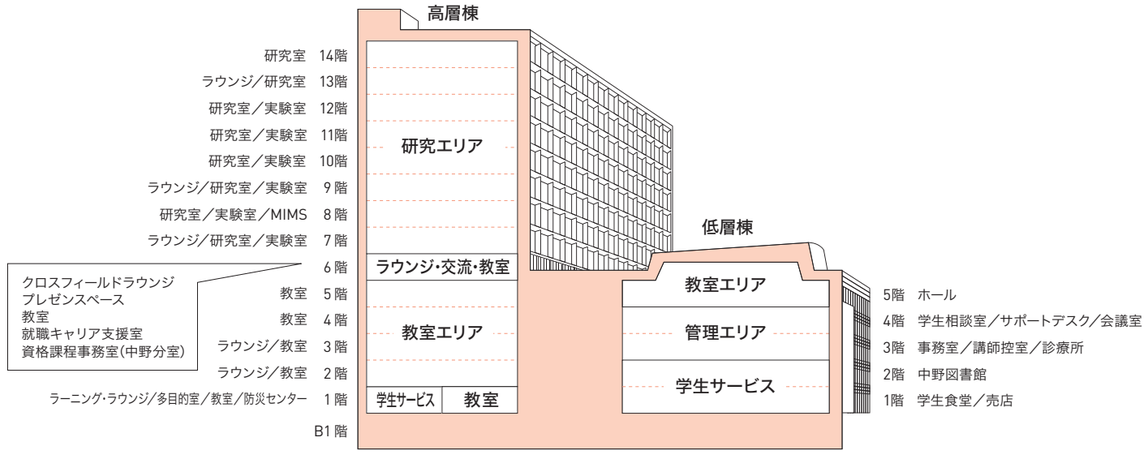
文部科学省の「国際化拠点整備事業(グローバル30)」に続き、「スーパーグローバル大学創成支援事業」にも採択された明治大学では、海外の学生が留学しやすい環境を提供するため、英語で学位を取得できるコースの設置や受入れ体制の整備を行っています。また、留学生と切磋琢磨する環境の中で、国際的に活躍できる人材を育成し、本学学生を数多く海外に送り出すための諸制度も整備。中野キャンパスは、「世界に開かれた大学」を目指し、高等教育で社会のグローバル化をリードしていきます。

社会連携

自治体や他大学、さらには研究機関、企業との連携および国際連携を推進し、広く社会に貢献していきます。その一環として、中野キャンパスでも様々な生涯学習講座を開講しています。また、国際日本学部では特に地域連携に力を入れ、ゼミや国際日本学実践科目などの科目や国際日本学部学生委員会の活動を通して、中野区のまちづくりに参加しています。

先端研究

先端数理(現象数理)に加えて、ほかの理系や文系についても、本学を代表する先端研究として育成します。これらが拠点となり、国内外の研究者などとの研究交流を図り、シンポジウム、共同研究プロジェクトなどを推進し、研究成果を外部に発信します。



Topics | 中野キャンパスの主な施設

アトリウム

教室

中野図書館

学生食堂

ラーニング・ラウンジ

クロスフィールドラウンジ

入試情報

明治大学は、一般選抜入試（学部別入試・全学部統一入試・大学入学共通テスト利用入試）
すべてにおいて、Web出願を導入しております。パソコン・スマートフォン・タブレットから出願できます。
※詳細は、必ず、一般選抜要項（明治大学ホームページにて11月上旬公開予定）をご確認ください。　※特別入試・推薦入試では、Web出願を行いません。

学部別入学試験

※英語4技能試験を活用します。詳しくは入試ガイドおよび一般選抜要項をご確認ください。

方式	募集人員	時限	時間割	教　科	配　点	試験科目	試験場
学部別3科目方式	130名	1時限	10：00～11：00（60分）	国語	150点	国語総合（漢文の独立問題は出題しない）	本学キャンパスのみ ※ただし、中野キャンパスは使用しません。
		2時限	12：00～13：00（60分）	地理歴史	100点	世界史B、日本史Bから1科目選択	
		3時限	14：20～15：40（80分）	外国語	200点	英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ）	
英語4技能試験活用方式	100名	1時限	10：00～11：00（60分）	国語	150点	国語総合（漢文の独立問題は出題しない）	
		2時限	12：00～13：00（60分）	地理歴史	100点	世界史B、日本史Bから1科目選択	
		3時限	―	―	―	英語4技能試験（資格・検定試験）を出願資格として利用	

2024年	出願期間（消印有効）	入学試験日	合格発表日時	入学手続締切日（消印有効）
	［1月4日（木）～1月22日（月）］	2月9日（金）	2月16日（金）9：30	3月1日（金）

全学部統一入学試験

※英語4技能試験を活用します。詳しくは入試ガイドおよび一般選抜要項をご確認ください。

方式	募集人員	時限	時間割	教　科	試験科目	配点	試験場
3科目方式	10名	1時限	60分	外国語	英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ）配点100点を200点に換算する。なお、外国語は英語を選択してください。（出願時に事前選択）	200点	東京（駿河台・和泉・中野キャンパス）神奈川（生田キャンパス）札幌 仙台 名古屋 大阪 広島 福岡
		2時限	60分	国語	国語総合（漢文を除く）	100点	
		下記の4教科8科目のうちから1科目を選択し、受験する。2科目を受験した場合には、高得点の科目を利用する。					
		3時限	60分	地理歴史、公民、理科	世界史B、日本史B、地理B、政治・経済、物理（物理基礎・物理）、化学（化学基礎・化学）、生物（生物基礎・生物）から1科目選択	100点	
		4時限	60分	数学	数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B「数列・ベクトル」）		
		合　計　（3科目）				400点	
英語4技能3科目方式	18名	1時限	―	外国語	英語4技能試験（資格・検定試験）のスコアに応じた得点を「英語」の得点として付与 配点100点を200点に換算する。1時限目外国語を受験した場合でも、その得点は利用しない。	200点	
		2時限	60分	国語	国語総合（漢文を除く）	100点	
		下記の4教科8科目のうちから1科目を選択し、受験する。2科目を受験した場合には、高得点の科目を利用する。					
		3時限	60分	地理歴史、公民、理科	世界史B、日本史B、地理B、政治・経済、物理（物理基礎・物理）、化学（化学基礎・化学）、生物（生物基礎・生物）から1科目選択	100点	
		4時限	60分	数学	数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B「数列・ベクトル」）		
		合　計　（3科目）				400点	

2024年	出願期間（消印有効）	入学試験日	合格発表日時	入学手続締切日（消印有効）
	［1月4日（木）～1月17日（水）］	2月5日（月）	2月16日（金）9：30	3月1日（金）

※試験地については、東京・神奈川・札幌・仙台・名古屋・大阪・広島・北九州の8会場の中から1つを受験生が出願時に選択します。
ただし、東京（本学キャンパス）では駿河台キャンパス・和泉キャンパス・中野キャンパスの選択はできません。また、志願状況により、神奈川（本学キャンパス）を選択しても東京（本学キャンパス）を指定することがあります。

大学入学共通テスト利用入学試験

方式	募集人員	利用する「大学入学共通テスト」の教科・科目・配点等			
		教　科	科　目	配 点	備　考
3科目方式	20名	国　語	『国語』	200点	
		外国語	『英語』	250点	リーディング100点、リスニング100点の合計点200点を250点に換算する。
		下記の4教科17科目のうちから1科目を選択。			（注）2科目以上を受験した場合には、高得点の科目の成績を合否判定に利用する。「地理歴史」「公民」および「理科」については、第1解答科目・第2解答科目にかかわらず合否判定対象とする。
		地理歴史	「世界史B」、「日本史B」、「地理B」	200点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。
		公　民	「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、『倫理、政治・経済』		大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。
		数　学	『数学Ⅰ・数学A』、『数学Ⅱ・数学B』		大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。
		理　科	「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」		大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。（注）「理科①」を利用する場合は、「理科①」のうちから2科目を選択し、この2科目を以て1科目とみなす。
		合　計　（3科目）		650点	
5科目方式	10名	国　語	『国語』	200点	
		外国語	『英語』	250点	リーディング100点、リスニング100点の合計点200点を250点に換算する。
		数　学	『数学Ⅰ・数学A』	200点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。
		下記の4教科16科目のうちから2科目を選択。			（注）3科目以上を受験した場合には、高得点の2科目の成績を合否判定に利用する。同一教科内について、2教科の使用も可。「地理歴史」「公民」および「理科」については、第1解答科目・第2解答科目にかかわらず合否判定とする。
		地理歴史	「世界史B」、「日本史B」、「地理B」	400点（200点×2）	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。
		公　民	「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、『倫理、政治・経済』		大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。
		数　学	『数学Ⅱ・数学B』		大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。
		理　科	「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」		大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。（注）「理科①」を利用する場合は、「理科①」のうちから2科目を選択し、この2科目を以て1科目とみなす。
		合　計　（5科目）		1050点	

2024年	出願期間（消印有効）	入学試験日（大学入学共通テスト）	合格発表日時	入学手続締切日（消印有効）
	［1月4日（木）～1月12日（金）］	［1月13日(土)・1月14日(日)］「令和6年（2024年）大学入学共通テスト受験案内」を参照してください。	2月16日（金）9：30	3月1日（金）

※個別学力検査等は課しません。　（注）「理科①」…「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」を指します。

特別入試

詳細については、各入試要項をご確認ください。

試験種類		募集人員	出願期間	入学試験日		試験科目
外国人留学生入学試験（Ⅰ型）		40名	2023年9月13日（水）～9月21日（木）	第一次選考	―	書類選考
				第二次選考	2024年1月13日（土）	口頭試問
外国人留学生入学試験（Ⅱ型）				―		書類選考
イングリッシュ・トラック入学試験	4月入学	10名	2023年9月14日（木）～9月27日（水）	第一次選考	―	書類選考
				第二次選考	未定*	口頭試問（オンライン）
	9月入学	10名	2024年3月8日（金）～3月21日（木）	第一次選考	―	書類選考
				第二次選考	未定*	口頭試問（オンライン）
自己推薦特別入学試験		6名	2023年9月19日（火）～2023年9月25日（月）	第一次選考	―	書類選考
				第二次選考	2023年11月25日（土）	小論文・口頭試問

＊入試要項でご確認ください。

学部別入学試験・英語4技能試験の活用について

国際日本学部の学部別入学試験（2024年2月9日実施）受験希望者で、英語資格・検定試験において
下記の基準を満たし、出願時に所定の証明書類を提出できる者が対象です。

（注）スコアの証明書類は2022年1月1日以降に受験（実用英語技能検定については証明書記載の受験回が2021年度第3回以降のものを有効とする）し、
かつ出願締切日までに提出できるもの1種類かつ1回のものに限ります。提出後の証明書類の差し替え、返却はできません。

①出願時に必要な等級またはスコア

試験の種類	必要なスコア
実用英語技能検定（英検）（従来型、S-CBT、S-Interview）	準1級以上
TEAP（注1）	309点以上
TOEFL iBT（注2）	72点以上
IELTS（注3）（アカデミック・モジュールに限る）	5.5点以上
TOEIC（L&R）&TOEIC S&W（注4）	L&Rで785点以上かつS&Wで310点以上
GTEC（注5）（CBTタイプに限る）	1180以上
ケンブリッジ英語検定（注6）	160以上

②合否の判定について

合否判定は「国語」（配点150点）、
「地理歴史」（100点）の2科目の総合点で行います。

③その他

「学部別3科目方式」と「英語4技能試験活用方式」を併願することが可能です。
※併願する場合には、1時限目『外国語「英語」』の受験が必要です。

（注1）「TEAP」は4技能パターンに限ります。また、TEAP CBTのスコアは認めません。
（注2）Paper Edition含む。Home Edition、「MyBest Scores」活用は不可。
（注3）IELTS Indicatorは不可。
（注4）「TOEIC（L&R）テスト」および「TOEIC S&Wテスト」両検定試験の受験およびスコアを必須とします。
また、IPテストのスコアは認めません。
（注5）基準スコア変更前（2023年3月まで）に取得したスコアについても、同様に取り扱います。
（注6）ケンブリッジ英語検定は、Linguaskillは不可。

全学部統一入学試験・英語4技能3科目方式について

全学部統一入学試験（2024年2月5日実施）における国際日本学部英語4技能3科目方式の受験希望者で、英語資格・検定試験において基準を満たし、出願時に所定の証明書類を提出できる場合、1時限目外国語の試験は免除とし、所定の等級またはスコアに応じた試験教科『外国語「英語」』の得点を以下のとおり換算します。

（注）スコアの証明書類は2022年1月1日以降に受験（実用英語技能検定については証明書記載の受験回が2021年度第3回以降のものを有効とする）し、
かつ出願締切日までに提出できるもの1種類かつ1回のものに限ります。提出後の証明書類の差し替え、返却はできません。

①得点換算点および得点換算に必要な等級またはスコア（最低点）

試験の種類	得点換算点（200点満点）		
	160点	180点	200点
実用英語技能検定（英検）（従来型、S-CBT、S-Interview）	2級合格かつCSE2.0スコア1980（注7）	2級合格かつCSE2.0スコア2088（注7）	準1級合格（注7）
TEAP（注1）	225	253	309
TOEFL iBT（注2）	42	52	72
IELTS（注3）（アカデミック・モジュールに限る）	4.0	4.5	5.5
TOEIC（L&R）&TOEIC S&W（注4）	総合スコアで790かつL&Rで550かつS&Wで240	総合スコアで890かつL&Rで625かつS&Wで260	総合スコアで1095かつL&Rで785かつS&Wで310
GTEC（注5）（CBTタイプに限る）	930	1013	1180
ケンブリッジ英語検定（注6）	140	147	160

②合否の判定について

英語4技能試験における得点換算点と、
2・3・4時限目における科目の総合点で行います。
※合否判定は方式ごとに行われます。

③その他

「3科目方式」と「英語4技能3科目方式」を併願することが可能です。

※併願する場合には、1時限目『外国語「英語」』の受験が必要です。

（注1）「TEAP」は4技能パターンに限ります。また、TEAP CBTのスコアは認めません。
（注2）Paper Edition含む。Home Edition、「MyBest Scores」活用は不可。
（注3）IELTS Indicatorは不可。
（注4）「TOEIC（L&R）テスト」および「TOEIC S&Wテスト」両検定試験の受験およびスコアを必須とします。また、IPテストのスコアは認めません。
（注5）基準スコア変更前（2023年3月まで）に取得したスコアについても、同様に取り扱います。
（注6）ケンブリッジ英語検定は、Linguaskillは不可。
（注7）実用英語技能検定について
○得点160点・180点については2級合格者のCSEスコア（CSE2.0）を活用します。ほかの級で同等のCSEスコアを有している場合については得点換算の対象となりません。
○得点200点については準1級以上の級合格を対象とし、CSEスコアは活用しません。

※英語4技能試験の活用については、入試ガイドおよび一般選抜要項をご確認ください。

Step into Meiji University

School of
Global Japanese Studies,
Meiji University

明治大学国際日本学部がわかる9つのポイント

「国際日本」って?

目的をもったリベラルアーツ

日本と世界をつなぐ!

グローバルな進路

あらゆる舞台で活躍

世界とつながる働き方

学科・科目

組み合せて化学反応を

1学科7領域から選び放題

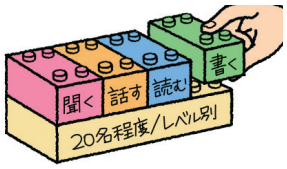
国際・留学

体験を通して世界とつながる

洗練された国際感覚を

英語

4技能を徹底して磨く



少人数のレベル別

社会の最先端を学ぶ

コロナやe-スポーツなど

トレンドも研究対象に

多文化共生

世界各国から集う仲間

5人に1人が留学生

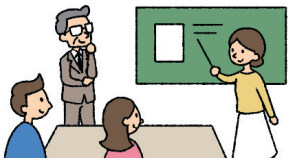
日本語

日本を学ぶ日本語

レベル別に少人数

ゼミナール

アクティブにつながる



2年次から

詳しくはこちらを**CHECK!**

受験生のための学部選択ガイド Step into Meiji University
https://www.meiji.ac.jp/stepinto/nippon

LINE **@meijiexam**

一人ひとりにぴったりの入試やイベントの情報をお知らせ。LINEだけのイベントもやってるよ!!

● 明治大学入試総合サイト
https://www.meiji.ac.jp/exam/

中野教務事務室（国際日本学部）
gjs@mics.meiji.ac.jp

＜中野キャンパス:全学年＞03-5343-8045